子どもの心をゆり動かす造形教育

37

紋別

第37回全道造形教育研究大会紋別大会

北海道

大会シンボルマーク

凍てついた流氷を突き抜ける光は七色の虹だ。それは未来を創造する子どもたちの歓喜と力強さを彩る夢である。

その地紋別で今第37回全道造形教育研究大会が開かれている。緑の風と海原を渡ってくる潮香に全身を委ねて子どもたちは変幻に美を創りあげている。

開催地紋別を全道の子どもたちが心を一つにして、包み込む姿をデザインしました。

デザイン　訓子府町立訓子府中学校
佐　藤　敬　司

ようこそ 紋別へ！

市街を一望する流氷展望台からの眺望

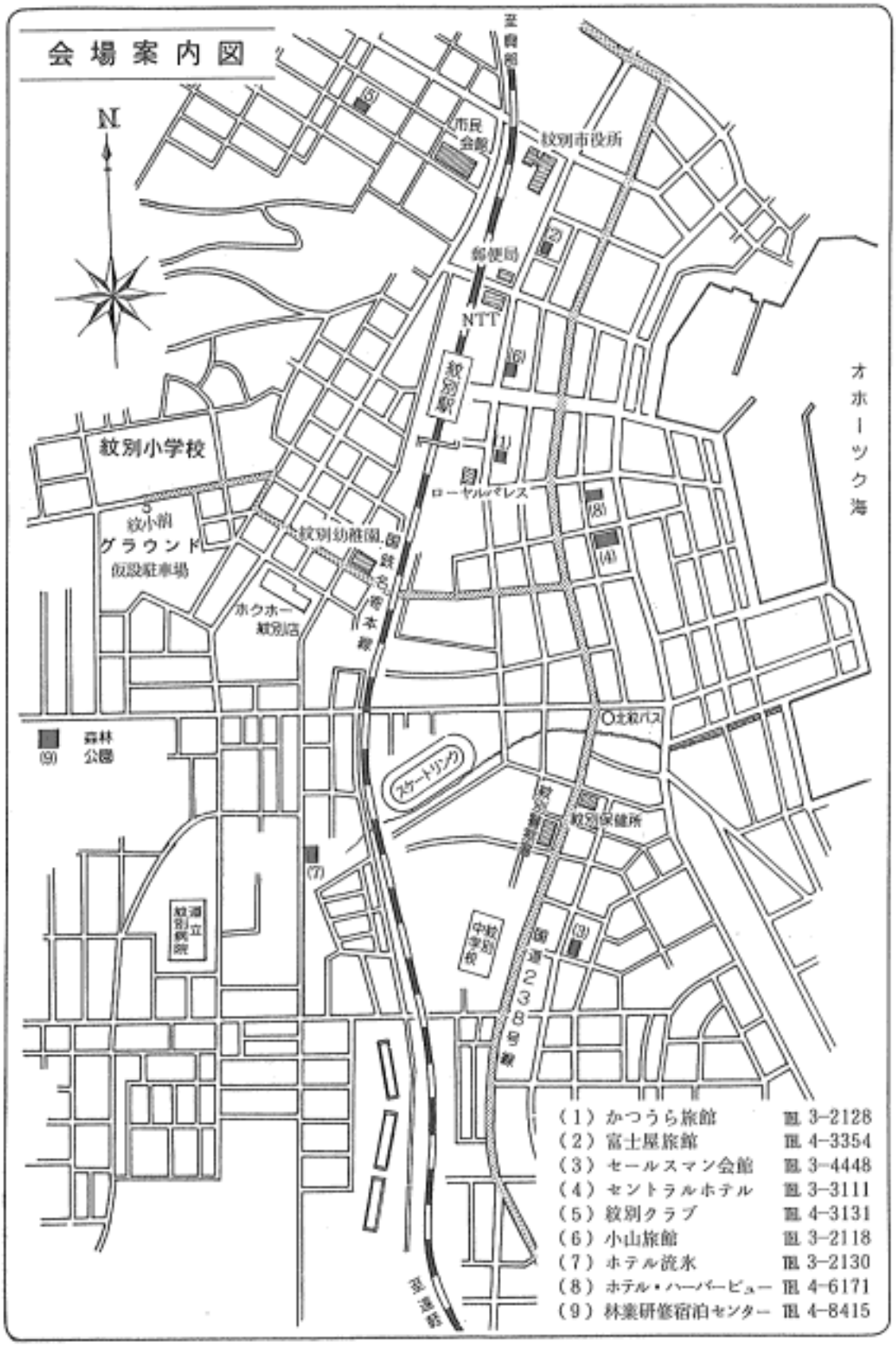
シベリヤの海から流れついた流氷

目　　次

大会シンボルマーク
ようこそ　紋別へ

会場案内図……1
第37回全道造形教育研究大会紋別大会……2
会場配置図……3
ご　挨　拶……北海道造形教育連盟委員長　松島　輝男……4
ご　挨　拶……第37回全道造形教育研究大会紋別大会運営委員長　豊島　豊……5
祝　　辞……北海道教育庁網走教育局長　斎藤　隼……6
祝　　辞……紋　別　市　長　金田　武……7
祝　　辞……紋別市教育委員会教育長　坪谷　昇……8
記念講演　講師紹介……9
全道造形教育研究大会の開催地と研究主題一覧……10
昭和62年度研究主題……11
紋別大会テーマ……13

学習指導案・提言
公　開　授　業……17
＜学習指導案＞　保育所　絵画造形　5才児　魚つりを楽しむ……18
＜学習指導案＞　幼稚園　絵　画　5才児　えのぐでしゃぼんだまづくり……20
＜学習指導案＞　造形遊び　第1学年　つくってあそぼう……22
＜学習指導案＞　小・工作　第2学年　なかよしの動物……24
＜学習指導案＞　工　作　第2学年　ストローぶえ……26
＜学習指導案＞　彫　塑　第3学年　動いている人……28
＜学習指導案＞　工　作　第4学年　歌う人形……30
＜学習指導案＞　絵　画　第4学年　お話の絵（想像画）……32
＜学習指導案＞　版　画　第5学年　物語のはん画……34
＜学習指導案＞　絵　画　第6学年　紋別のまち……36
＜学習指導案＞　中・デザイン　第2学年　デザイン・オホーツクの旅人……38
＜学習指導案＞　工　作　市内特殊学級　ダンボールで遊ぼう……42
第37回全道造形教育研究大会・紋別大会分科会一覧……44
＜提　言＞　幼稚園　全領域……46
＜提　言＞　小学校・絵画（低学年）……47
＜提　言＞　小学校・工作（中学年）……48
＜提　言＞　小学校・絵画（高学年）……49
＜提　言＞　小学校・総合……50
＜提　言＞　中学校・彫塑……51
＜提　言＞　中学校・総合……52
北海道造形教育連盟規約……53
大会協力校紹介……54
大　会　役　員……55
紋別小学校ＰＴＡ協力役員……58
昭和62年度　北海道造形教育連盟名簿……59


会場案内図
N
紋別市役所
市民会館
郵便局
NTT
紋別駅
紋別小学校
紋小前グラウンド
仮設駐車場
ローヤルパレス
紋別幼稚園
ホクホー紋別店
オホーツク海
森林公園
スケートリンク
紋別保健所
紋別病院
中紋別校
道路238号線
（1）かつうら旅館 TEL 3-2128
（2）富士屋旅館 TEL 4-3354
（3）セールスマン会館 TEL 3-4448
（4）セントラルホテル TEL 3-3111
（5）紋別クラブ TEL 4-3131
（6）小山旅館 TEL 3-2118
（7）ホテル流氷 TEL 3-2130
（8）ホテル・ハーバービュー TEL 4-6171
（9）林業研修宿泊センター TEL 4-8415

第37回

全道造形教育研究大会

紋別大会

1. 大会テーマ

子どもの心をゆり動かす造形教育

紋別テーマ

―表現の喜びにひたる子どもを育てる―

2. 日　程

		8:30	9:30	10:20	10:30	11:00	11:10	12:00	13:20	15:30	16:00	17:00	18:00	20:00
28日(火)	(第一日目)	受付	公開授業 ※		司会・助言 提言打合せ		開会式 オリエンテーション	昼食 アトラクション	分科会 授業・提言	移動	道都大学 見学		記念 パーティー	

※ 紋別小学校，紋別幼稚園

		8:30	9:00	10:00	10:10	12:00	12:30
29日(水)	(第二日目)	受付	分科会 提言		記念講演	閉会式	

＝大会事務局＝

〒094　紋別市花園町５丁目４－15
紋別市立紋別小学校
事務局長　狩野鉄男
℡（01582－3－5135）

3. 記念講演

「オホーツク海の流氷について」　北海道大学低温科学研究所付属流氷研究施設長
教授　青田昌秋氏

4. 主　催　北海道造形教育連盟・オホーツク造形教育連盟

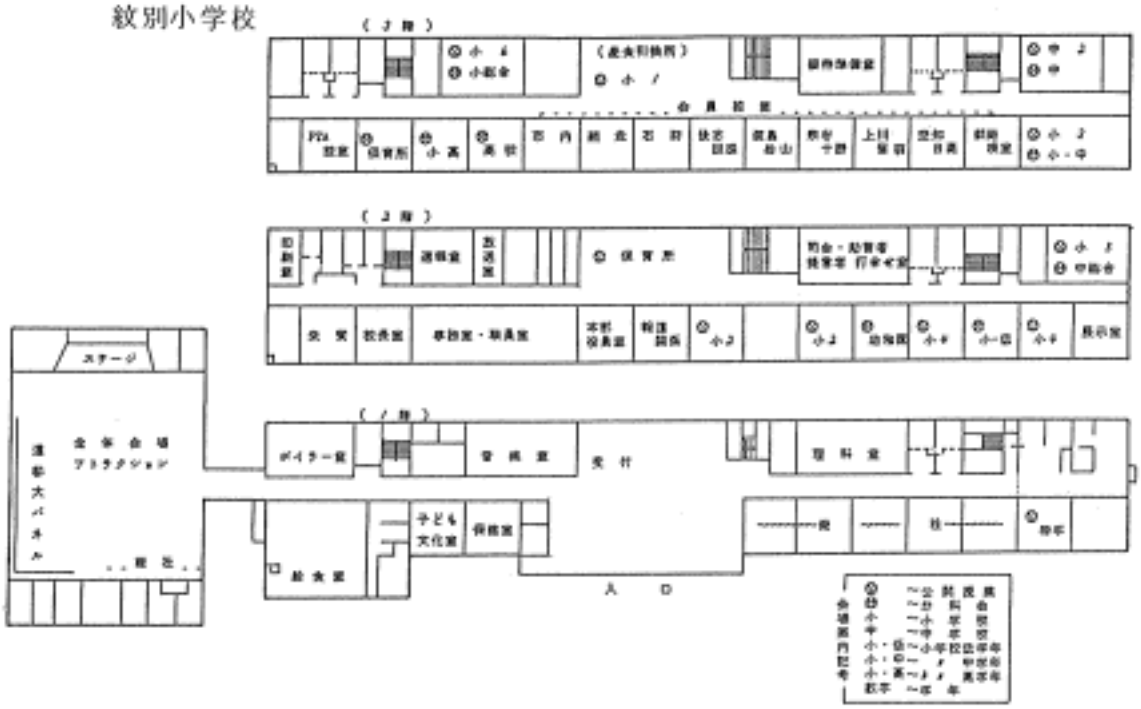
5. 後　援　北海道教育委員会・紋別市・紋別市教育委員会
網走地方教育委員会協議会・北海道国公立幼稚園教育研究会
社団法人北海道私立幼稚園協会・北海道社会福祉協議会保育協議会
北海道小学校長会・北海道中学校長会・北海道高等学校長協会
道都大学美術学部

6. 会　期　昭和６２年７月２８日(火)・２９日(水)

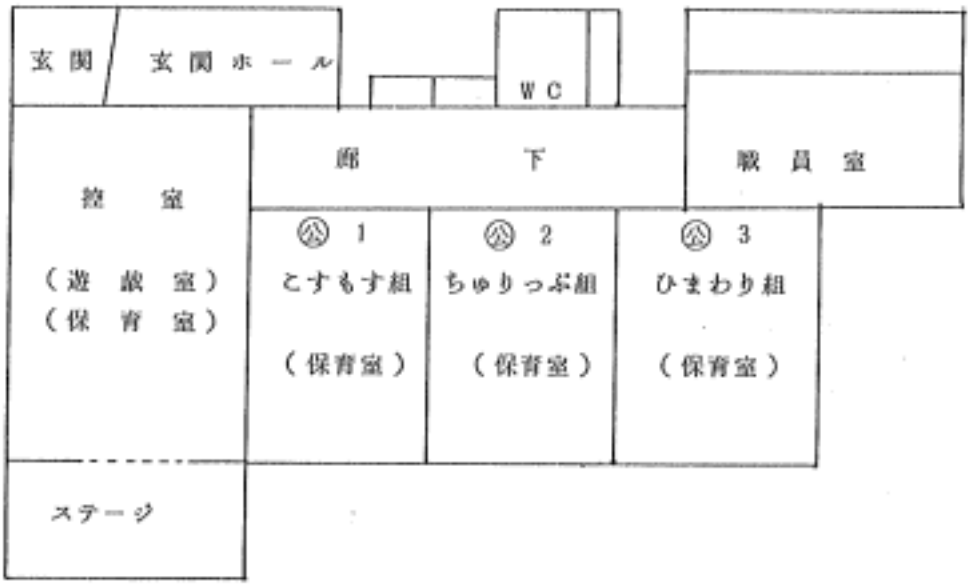
7. 会　場　紋別市立紋別小学校（紋別市花園町５丁目４－15）

会場配置図

紋別小学校



紋別幼稚園



ご　挨　拶

北海道造形教育連盟委員長　松　島　輝　男

第３７回全道造形教育研究大会が、オホーツク造形教育連盟が中心となって、道教育委員会をはじめ、紋別市・同教育委員会・網走地方教育委員会協議会他、多くの関係機関のご後援のもとに、盛大に開催される運びとなりましたことは誠に喜びにたえません。

特に、オホーツク造形教育連盟の皆様には、長期間にわたって、少数精鋭のスタッフで、地理的にも広大な地域の中での連絡調整の難しさを超えて本大会開催に持ち運んでいただきました。その労をねぎらい申し上げると共に、連盟会員一同を代表して敬意を表する次第であります。

また、開催地紋別市には、市をあげて大会開催に歓迎の意を表され、なみなみならぬご後援、ご配慮を賜りましたことにつきまして厚く感謝申し上げます。過去３６回の大会開催地を振り返ってみましても、第１０回網走大会、第２４回美幌大会につづく、伝統ある地域として、早くから大会開催をと望まれており大会の成果を各地から大きな期待をもたれているところであります。

さて、昨年、旭川市におきまして、全国・全道の皆さんが熱のこもった研究討議をした日から早くも一年を経過しました。その折に持ち帰られた種子が、各地でしっかりと根を張り花を咲かせ、立派に実を成らせたことと思います。その実を携えて、全道各地から再びこの地にお集まりいただきました。懐しい方々との再会を本当に嬉しく思います。

私もこの地には二、三度お邪魔致しました。厳冬の流氷を前にして肌につきささるような厳しい寒さを体験しました。一転して、夏のオホーツクの海のたとえようのないアオ（青ではない、藍でもない碧？、ある人はナイルブルーと言いました）やミドリ（緑・翠・○○グリーン）の大地にもふれました。この厳しく豊かな風土を背景にしてのオホーツクの子ども達の造形活動を中心に、この地の先生方の努力に応え、全道各地それぞれの特色ある実践の数々をお土産として置いていただき、また新しくお土産としてお持ち帰りいただくそんな大会であって欲しいものであります。

先にあげましたが、当地方では久し振りの大会であります。貴重な機会として捉え、全道造形教育の伸展の大きな環としての会員各位のご活躍を期待いたします。

日本の教育改革が国を挙げて論議されております。つぎつぎとその具体策が提示されつつある中で残念ながら、美術教育に対する大方の認識の面で、我々からすると今ひとつずれを感ずるものがあります。中学校の美術の扱いなどについてもっと厳しい理解をいただかねばということでの危機感も一部にはあろうかと思います。

我々は、日々の実践を通して、美術教育の重要性をくり返しくり返し訴え、実証してみせなければならないと思います。この大会が、この地限りのものでなく、ことし限りのものでなく、本道のいや日本の美術教育のこれからについて、大きな示唆を与え方向をさぐるものであって欲しいものであります。

大会の盛会を希ってご挨拶といたします。

ご　挨　拶

第３７回全道造形教育研究大会
紋別大会運営委員長　豊　島　　豊

「流氷都市宣言」そして「オホーツク海岸線ドまんなか」のまち、紋別市へ、ようこそおいでくださいました。全道各地からご参会の皆様を心からご歓迎申し上げます。

第３７回大会を網走地区で開催して欲しいとの道連盟からの要請をいただき、再々の内部協議を重ねた結果、当紋別市を開催地としてお引き受けすることになりましたが、当地区での開催は、第１０回網走大会、第２４回美幌大会についで３回目となります。

過去に多くの諸先輩が全道各地の開催を通じて築きあげ、引き継いできた偉大なる伝統を、果してわれわれが受けとめきれるものかどうか、そこには少なからぬ逡巡がありました。紋別市の地理的位置、宿泊その他の受け入れ態勢、公開授業の見通し、そして短い準備期間等々多くの困難が予想されました。しかし、口はばったいようですが、未来に生きる子どもたちのために、また本道図工・美術教育の前進のためにも、困難を乗り越えて取り組もうという当連盟会員の決意と行動力に支えられて現在に至りました。

誠に短い期間であり、かつ諸事不馴れなために不行届きの点があるのではないかと危惧いたしておりますが、何卒お許しをいただきたいと存じます。

本大会の開催にあたりましては、網走教育局、紋別市ならびに紋別市教育委員会をはじめ、各関係機関より絶大なるご支援を賜りました。また公開授業等のため、幼稚園、保育所、小・中学校の児童・生徒の皆さんや諸先生の並々ならぬご協力をいただきました。さらに大会運営の面では全道及び市内各学校の先生方、地元道都大学と紋小ＰＴＡの皆様から献身的なご援助をいただくなど、大勢の方々の支えをいただいて成立したことを思いますと、口では言いあらわせない感謝と感動の念で一杯でございます。ほんとうに有難うございました。

今日、子どもたちはテレビ・ゲームをはじめとするマス・メディアによる疑似的体験の中にどっぷり浸ってしまい、自己の手やからだを使って直接体験する機会が失われつつある現状から、いわゆる非人間化への進行に警鐘が鳴らされています。

本来、図工・美術の活動は、対象に対して心を動かし、興味関心を示すことから始まり、美しいと心に感じ、それを表現してみたいという人間の本能的な欲求でもあるわけです。本大会を通じて「美しいものを真に美しいと感ずる心」を、そして「表現の喜びにひたる子ども」をどう育てるかを追求することにより、次代を担う子どもたちの人間復活への道を探ることができればと考えております。

最後になりましたが、大会が実り豊かな収穫を得て終了できるように、皆様のご協力を切にお願い申し上げてご挨拶といたします。

祝　　辞

北海道教育庁網走教育局長　斎　藤　　隼

第３７回全道造形教育研究大会が、夏の太陽に映えるオホーツク海を望む紋別市において、盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。

美を愛し、子どもを愛し、豊かな人間性の涵養を目指して情熱を傾け、実践されておられる先生方の御参会を心から歓迎申し上げます。

全道造形教育連盟は、児童生徒の造形活動を通して一人一人の個性を尊重しながら、感性と理性の調和のとれた人間形成を目指し、毎年継続して研究大会を開催してこられたと伺っております。

この間、全道はもとより全国の造形教育の振興に大きく貢献し、数々の成果を上げてこられたところであり、その御尽力に対し深く敬意を表します。

今日、教育を取り巻く社会環境は極めて複雑となり、学校教育の改善にかかわっても、各方面から様々な指摘や提言がなされているところであります。

21世紀を担う人間として、創造力に富み、表現する力をもち、自主・自律の精神に満ちた子どもの育成が強く求められています。

いわゆる造形教育は、このような自主性、自発性を基盤とした創造活動を第一の目的とし、児童生徒個々の人間性の育成に直接かかわるものといわれ、豊かな心を育てる人間教育の基盤をなすものとして、その重要性が改めて強調されているところであります。したがって豊かな情操を養うこれらの活動は、未来に生き、未来を創造する人間を形成する上で欠くことのできないものであり、造形教育に携わる諸先生方の期待は極めて大きいものであります。

本大会が、教育の現状を正しく見すえ、「子どもの心をゆり動かす造形教育」を大会テーマに、全道の造形教育の第一線で活躍されている幼稚園、小学校、中学校、高等学校の先生方が一堂に会して研究を深められますことは、誠に意義深いものと考えます。

先生方の熱意あふれる研究協議が管内の造形教育の深化発展の上に、重要な足跡をしるすことはもちろんのこと、広く全道の教育全体に貴重な寄与をなされることを確信しております。

当網走管内は、流氷が接岸する日本唯一の海岸線を持ち、また紋別市には世界に誇る流氷研究施設もあり、原始から続く自然が残された地域でもあります。

この大自然に恵まれた地域の特性と造形教育とのかかわり等についても十分話し合いを深めていただきながら、本大会が、地元関係者の熱意と全道各地の皆様方の期待に応える充実した研究会となりますよう祈念申し上げ、祝辞といたします。

祝　　辞

紋別市長　金田　武

雲のきれ間から、澄きった夏空が広がり、一陣の涼風がさわやかなオホーツクのまち紋別市に、全道各地で造形美術教育に携わっておられる多くの先生方をお迎えして、第３７回全道造形教育研究大会が開催されますことを心から歓迎申し上げます。

本大会では、幼稚園、保育所、小・中学校、高等学校等の教育現場の第一線から、知・徳・体のバランスのとれた創造力豊かな人間性の育成を目指して、研究実践されておられる諸先生が、ご参加いただいておりますので、本市の教育界に極めて大きな影響を与えるものと確信しております。

近年、科学の著しい発展に伴い、青少年をとりまく社会環境は目まぐるしく変化し、児童生徒の心身の望ましい成長に関する諸問題が表出してきております。こうした状況にあって、創造する力、表現する力を高めることは、人間性の回復を図り、豊かな情操を陶冶するうえで、極めて重要であり、造形・美術教育の果たすべき役割は益々大きくなるものと思います。

どうか、「子どもの心をゆり動かす造形教育」～表現の喜びにひたる子どもを育てる～をテーマに、本大会が実り多い成果を上げ、21世紀に生きる青少年の人間形成に大いに寄与されますことを祈念申し上げ、お祝いのことばといたします。

祝　　辞

紋別市教育委員会教育長　坪　谷　　昇

全道各地から造形・美術教育に携わる諸先生方並びに教育関係者を、ここ紋別市に多数お迎えし、第３７回全道造形教育研究大会が開催されますことに際し、心からご歓迎申し上げます。

網走管内は、本道の東北部に位置し、オホーツク海に面したオホーツクラインの観光ルートの中にあって、東は、知床国立公園を容し、北は宗谷を望み、北海道・北の玄関口、網走国定公園も原生花園の宝庫として、ハマナスやエゾスカシユリ等の咲きみだれる美しい海岸と湖の多い環境にありまして、その周辺には史跡・名勝・天然記念物が多く、四季折々の風光は、他に例を見ない雄大な自然の景観に恵まれたところであります。

このようなオホーツク海沿岸の中心に位置する紋別市は、人口３万２千人の遠紋広域圏の中核都市として、産業の振興や文化活動の中心的役割を持ち、また、流氷研究国際都市構想を長期的命題に、地域活性化の推進、施策を展開していくための拠点基地として２１世紀の新しい街づくりを指向しているところであります。

さて、本大会は、それぞれの教育現場で豊かな人間性の涵養を目指して研究実践をされておられる諸先生方が、「子どもの心をゆり動かす造形教育」を研究主題に幼稚園、保育所、小・中・高等学校の一貫した、美的情操教育の在り方を研究討議されますことは、誠に意義深いものと考えます。

先生方の熱意あふれる協議・研究交流が、本市造形教育の充実は勿論のこと、広く道内の造形教育発展のため、大きな刺激となり指針となることと思われます。

どうか研究大会に参加される皆さまには、本大会の成果を地域に持ち帰られ、豊かな創造力とやさしい心を持つ子どもたちの教育を目指して、これからも一層ご活躍いただくとともに、この大会が意義あるものとして成功されますことを、心からご期待申し上げる次第であります。

おわりに、本大会の運営に当られました諸先生、運営にご支援、ご協力いただきました関係各位に心から感謝申し上げまして、祝辞といたします。

記念講演

オホーツク海の流氷について

北海道大学低温科学研究所付属流氷研究施設長
教授　青田昌秋

学　歴

昭和38年3月　北海道大学理学部地球物理学科卒業
昭和40年3月　北海道大学理学部物理学科卒業
昭和50年6月　理学博士の学位授与（北海道大学）

職　歴

昭和58年4月　北海道大学低温科学研究所
流氷研究施設長教授
現在に至る

MEMO

年次研究主題

―全道造形教育研究大会の開催地と研究主題一覧―

- 第１回（札　幌）　情操教育の一環として本道図工教育の進展をはかるため。
- 第２回（札　幌）　美術教育の新思潮である創造主義美術教育の諸問題について。
- 第３回（旭　川）　美術教育の指導とは何か。
- 第４回（函　館）　図画工作教育実践上の諸問題について。
- 第５回（釧　路）　図画工作教育における学習指導上の問題点の解明。
- 第６回（札　幌）　造形教育において、つくり出す力を養うにはどうしたらよいか。
- 第７回（室　蘭）　のぞましい造形教育における具体的諸問題について。
- 第８回（小　樽）　図画工作学習によって児童生徒の人間性がどのように培われるか。
- 第９回（帯　広）　新段階における造形教育のあり方。
- 第10回（網　走）　本道における造形教育の実践を通して今後のあり方を見よう。
- 第11回（滝　川）　子どもたちの芸術性を育てるために私たちは何を与え何をすべきか。
- 第12回（名　寄）　子どもが生活を見つめて造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか。
- 第13回（余　市）　子どもが生活を見つめて造形的に高まっていくために私たちはどうしたかよいか。
- 第14回（札　幌）　子どもの造形能力とは何か。
- 第15回（稚　内）　子どもの造形能力とは何か。
- 第16回（室　蘭）　子どもの造形能力とは何か。
- 第17回（函　館）　指導の構築を具体化する。
- 第18回（苫小牧）　指導の構築を具体化する。
- 第19回（札　幌）　造形能力は、どのような指導によって育てられるか。
- 第20回（旭　川）　ゆたかに生きる子どもの造形能力をどう育てるか。
- 第21回（札　幌）　造形能力は、どのような指導によって育てられるか。
- 第22回（帯　広）　未来に生きる子どもの造形教育（生活に根ざした造形表現をどう高めるか。）
- 第23回（室　蘭）　未来に生きる子どもの造形教育（たしかな表現力をどのように育てるか。）
- 第24回（美　唄）　未来に生きる子どもの造形教育（ひとりひとりの子どもの表現力をどう高めるか。）
- 第25回（江　別）　未来に生きる子どもの造形教育（自ら創りだす力をどう育てるか。）
- 第26回（岩見沢）　未来に生きる子どもの造形教育（すべての子どもの造形のよろこびを。）
- 第27回（札　幌）　（第30回全国造形教育研究大会とかねる。）みずみずしい中味でしなやかな子どもを育てる造形実践。
- 第28回（函　館）　みずみずしい中味でしなやかな子どもを育てる造形実践（すべての子どもが生き生きととりくむ造形学習。）
- 第29回（旭　川）　生き生きとしたゆとりのある子どもを育てる図工美術教育のあり方。
- 第30回（苫小牧）　ひろがりと深まりの造形教育を求めて。
- 第31回（釧　路）　創りだす心をよびおこす造形教育。
- 第32回（室　蘭）　見る、知る、感ずるそして、創りあげる喜びを。
- 第33回（留　萌）　生活とふれ合い、創る心のひろがりを求める造形活動。
- 第34回（札　幌）　知恵とエネルギーをわきたたせる造形活動（わき立つ発想・たしかな表現・つくり出す喜び）
- 第35回（函　館）　知恵とエネルギーをわきたたせる造形活動(心をこめてつくりだす子どもを育てる。)
- 第36回（旭　川）　（第39回全国造形教育研究大会とかねる。）子どもの心をゆり動かす造形教育（つくる心のひろがりと深まりを求めて）
- **第37回（紋　別）**　子どもの心をゆり動かす造形教育（表現の喜びにひたる子どもを育てる）

昭和62年度研究主題

子どもの心をゆり動かす造形教育

北海道造形教育連盟

人間が生きていく中で、形と色とは切り離すことのできない関係にあります。物の形を捕え、その形を写し出そうとする営みは、人間の成長に大きな影響を与えます。では形や色というものは何であるかを考えてみよう。今、ここに一本の野の草があるとしましょう。水を十分にすった細くすんなりとした茎は、ところどころに節目があって、細いかぼそい茎全体を強靱に支えています。いく筋の葉脈をもった茎は、まるで航空写真でみる田園のように見えてきます。

何枚かの花弁によって、おしべやめしべがまもられている花は、つつましやかにほほえみかけてきます。大地から十分に水分を吸いとるために何本ものこまかなしっかりとした根を見ることもできます。こうして草全体を見てわたくしたちは草を弁別します。草はその形や色ばかりでなく、その情況もふくんで子どもたちの前にあるのです。子どもたちは、そのひとつひとつの事実の中から、自己に対して反応し成長するのです。ある子は、花の中に宮殿や牧場や町をイメージするでしょう。またある子は根の中に生きる強さのようなものを感じとるでありましょうし、またある子は茎や葉の中から目に見えない空気の流れや、その動きの中からやさしさといったものを感じるでありましょう。このように、ものの姿、ものの形は、わたくしたちの心をゆり動かすのであります。ものをよく見ることの大切さは、このように「かたち」の中に含まれている動きを捕えることに他ならないのです。それは、ものの心を知るということなのです。一本の草を弁別することにとどまらず草の心に接していく心によって、草の心に接することが「よく見る」ことなのです。造形教育は、そこまでの心の深まりを必要とする営みなのです。

一本の草ばかりでなく、わたしの先生を描くにあたっても同じことなのであります。先生を描くのは、そこに在るものとして描くのではなく先生の人格そのものを描くことなのです。それを本質を描くということなのです。そこにおられる先生を自分の力で呼びかけ、呼び込み、先生を子どもの、その時代の時間と共に永遠にしようとする営みなのです。それは先生をいつくしみ、先生と共に生きていく心なのです。それが造形教育で求める人間性なのです。

ものの形や色を描いたり、つくったりする造形活動は、自分の捕えたものを表現してみて、再検討することであります。このような活動は教師は励ましつづけ、子どもたちが己れの手法で表わし切れなくて失望したり、つまずいたりした時に、同じように苦しんでいる人がたくさんいることや、こんな工夫をしている作品があると、そのなやみやつまずきを離脱させる手だてをもって、子ども自身が自らの力で発展していくことを支えてやることです。このような時に、こうやりなさい・これはこうすればよいといったことを教えていてはだめなようです。子どもが自分で工夫し、開拓していく姿勢がなくなると、またすぐ行き詰ってしまうからです。

子ども同志が仲間の工夫や努力に学びはげま

されるような教育を、わたしたちは「子どもの心がゆり動いた教育」と呼びたいのです。自分の心に聞いて描いたり、つくったりすることをはげまし、支えることが子どもの心をしてゆり動くのであります。こういう作品をつくりなさいといったような強制をしたり、こういう技能をマスターしなさいといって強制したりして、子ども自身のものを育てない営みは、一時は目をひくような結果があっても、子どもの心はゆり動かないのです。それは子どもの心をゆさぶっただけにすぎないのです。子どもたちがその一生を通して造形する活動を継続しつづけることは、人間の生活をより豊かにするものであることを自覚させてやる営みを研究実践の眼目にしたのは、その為なのです。

そこで、北海道の造形活動は次の点に力点をおいて進められるように努力したものです。そのひとつは、子どものとりまく生活（現実）とのかかわりを大事にして押しすすめたいということです。子どもが子どもなりに、その生活のどの部分に子どものエネルギーを発散させることが最も望ましいかを吟味し、それを積極的に教材化することです。既成の教材を見直し、色と形の修練の場を用意することです。そこで、ものやくらしを観察したり、理解したりして、イメージをよりひろげることです。それは、観察・認識・鑑賞・イメージの要素にたって、全教育活動の中ではぐくむように心がけることです。このことは単に造形活動が狭いものでなく学校づくりの中核になる仕事にしなくてはなりません。そのための共鳴と共感を学校の中につくりあげていきたいものです。

そのふたつは、造形物をつくることは、まさしく生産活動であります。ですからこれを利用する、つまり消費する必要があります。教育的生産物は教育活動の中に環流されて、子どもの生活（精神をふくめたもの）を豊かにしていきたいものです。

みっつめは、造形するということの本質は、「教育する」「教育を求める」ことでなくてはなりません。子どもの内部にあるエネルギーを輝やかせることです。これは子どもの人格の陶冶でもあるのです。造形教育がひろい意味のガイダンスであることを自覚していくことであります。

この三つのことが、子どもの心をゆり動かし、人間として豊かになるのです。造形学習が造形の要素のための技術的な知識を身につけたとしても、それは「種子」にすぎません。「種子」だけでは生産はなされないのです。豊かな土壌があってはじめて生産の実をあげる訳ですから、子どもの生活をより深く、より柔かくしてやらなければなりません。子どもの心を開拓するには、教師が子どもへのたしかな、そして豊かな「ねうち」、即ち識見をもち、なにをどう教えていくかといったローングの見通しを持つことです。それは、子どもが「どう学習するか」といった子ども自身の生活の発見を重ねて「何を学んでいくか」ということを深めていくプログラムをつくりあげていくことです。

子どもの心をゆり動かす造形教育の志向は、第２の本連盟の指導の構築の仕事であるといえます。今日の教育課題でもあり、また教育の究極の課題でもある個性の尊重という課題に向って「人間が人間として人間となる。」ことをめざして、子どもたちをたえず励まし、支え、発展させ、子ども自身のもの、その子の個性的な生き方のにじみ出たもの、つまり、その子自身の表現を援助する仕事を北海道造形教育の基底におきたいのです。

＜文責　金井　秀男＞

紋別大会テーマ

表現の喜びにひたる子どもを育てる

オホーツク造形教育連盟

1. はじめに

臨教審答申の中に、来るべき２１世紀を担う子どもを育成していくための教育の目標として、「ひろい心、すこやかな体、ゆたかな創造力」を第一に挙げ、健全な精神を宿した健全な身体の持主にしてはじめて、ゆたかな創造力を発揮することができることを指摘している。

オホーツク造形教育連盟では、今まで子どもたち一人一人が「創り出す心」「創り出す喜び」を感じ、自分の気持ちを視覚的に表現し続けることができる態度を将来に向かって持ち続けることを期待し取り組んできた。

私たちは、表現や鑑賞といった活動を通しながら、ものの本質を正しく見抜くことや、自分の意志を思うように表現することができる力を養い、その上で新しいものを発見したり、創り出していく創造力を高める造形教育を求めて行かねばならない。

特に、人間の心と健康の大切さを認識し、子どもの心身ともに健全な均衡のとれた発達に最大限の努力を払うことが求められている。

今日の子どもの実態をみるとき、「物があって心がない」「自分があって他人がない」など子どもの生活の中から、自己の手や体を使って直接体験することが失われてきている。

いわゆる非人間化が進み、手づくりの良さを見失いつつあるのが現状である。したがって、「表現の喜びにひたる子どもを育てる」ことは、最も今日的な課題の一つである。

2. テーマについて

「好きこそものの上手」といわれるとおり、「何でとも好きだと、それを熱心にやるから上達するのだ」という金言は、芸能教科において欠くことのできない心情である。

子どもの造形活動においては、表現の喜びにひたることによって、描いたり、造ったりするイメージが湧き、五感をフルに働かせて自らの意志と判断によって主体的にものを見たり、触ったり、経験したりする。

また、からだ全体をつかって心に感じたことを視覚的な手段で表現しようとする意欲や態度が培われるのではないだろうか。

「表現の喜びにひたる」とは、主体性を育てることである。他から働きかけられるだけの客体ではなく、自分から他に積極的に働きかけるのが主体である。

ここに私たちは、人間性教育＝個性尊重の教育＝主体性を育てる教育＝創造性を育てる教育という図式で「表現の喜びにひたる子ども」を育てて「子どもの心をゆり動かす造形教育」を進めたい。

3. 研究の手がかり

紋別大会では、子どもの現状の中から造形教育を進めるに当たって、私たちは、カウンセリング・マインドに立った指導の手順、方法を工夫し、授業実践を通して解明していきたい。

子どもたちの学習態度でよく見かけるのは

「ただ描けばいい、造ればいい」という主体性のない子ども、「どうせ下手だからだめなんだ」という子どもの中には、形を正確にじっくり見ることができない、描き方や彩色の仕事が雑である、色の使用が概念的である。作品の出来上がりが遅い、集中して取り組めない等、ただなんとなく描く、造る子どもが多い。

これらの課題を解決するためには、まず第一に、子どもたちの日常生活の中で「より豊かな心情と環境を醸成する」ことが先決である。第二に、私たち教師は「何故子どもに絵を描かせたり、ものをつくらせるのか」を認識する必要がある。

第三に、今までは「子どもにどう良い絵を描かせたり、ものをつくらせるか」という技術面にこだわり過ぎていたように思われる。

これからは、「心のやさしさを育てる」ことを表現活動の目あてにすることが大切である。ややもすると、知育偏重になりがちな現在、言葉による自己表現が乏しい授業の中で技能教科は、言葉以外の手段で自己表現ができる貴重な機会であり、教師は、子どもの心の読みとりとそのフォローに心がけたいものである。その一例をあげると、

(1) 子どもを公平に扱い、子どものちょっとしたつぶやきやピントの外れた考えも一つの考え方として、大切に取り上げる。

(2) 子どもの発言をさえぎらず、「うんうん」「なるほど」「そうか」などと傾聴する受容的姿勢が必要である。

(3) 子どもに考える間を与え、教師の待つゆとりが必要である。

(4) 子どもの表現を生かしながら整理し、考え方や感情を的確に確かめてやる。特に情緒的表現を大切にし、子どもの「こころ」を育ててやる。

(5) 個人の考え方や感じ方が集団に伝わり、相互理解のもとに、子どもが存在感を感じるように援助してやる。

(6) ほめたり、激励したりして子どもに自信と勇気を与えてやる。

(7) 「正直なところ、先生も難しいんだ」のように、教師のありのままの姿をさらけ出し「だれもが困ったときは、困った態度を見せるのが自然である」という安心感を与えてやる。

(8) 自信のない子のサインも注意深くキャッチし「君、何か言いたそうだね」のようにうまく引き出してやる。

このようなカウンセリング・マインドは教育相談という特別な分野のものではなく、教育の基本姿勢として、全教師が持たなければならないものであり、授業の中にこそ生かさなければならない。

4. 教えることと育てること（表現過程）

(1) 想像の系（育てるところ）

絵や工作という造形活動は「答えは一つではない世界」であるために、一人一人の子どもの個性に応じた考え方、感じ方、表し方が自由に表現できる特色をもっている。

図工科の学習における子どもの表現過程は、裏を返せば、教師の指導過程の反映でもある。すべての造形活動は、色と形のイメージが浮ばないことには、表現の出発にならない。人はいろいろな先行経験を素材として、新しいイメージを作ったり、表現化していくのである。

人はイメージによって行動するから、描くことや作ることへの行動は、ここで決まることになる。教師側からみれば、このイ

メージの浮かべさせ方が指導のポイントになる。

(2) 技術の系（教えられるところ）

イメージが明快に浮かんでも、そのままでは絵となり工作とはならない。絵ならば画用紙とクレヨンや絵の具など画材の使用という技能面と、絵という様式の約束ごとを学ばなければ、絵として表現することにならない。この技術の系は、いわゆる教えることのできるところである。

同じように、工作では、材料が整えば、造形活動が始まるというわけにいかない。それらの材料をどう処理するかという技術的なことを教えたりやってみることでわからせたり、何回もやり直して確かめること（造形トレーニング）によって技術的態度を育てていくことが大切である。

教えられるものには、次のような事項が考えられる。造形原理・造形要素の基本・ものの見方・感じ方の基本・材料の一般的な性質・道具の扱い方の基本・制作手順の例等、認識と技能構成にかかわる内容。

(3) 伝達の系（心のよみとり）

子どもの絵は「あなたへのメッセージである」とか「心の伝達である」といわれるように、絵その他の造形表現は、表現であると同時に伝達を含んでいて、表現しながら自分にいいきかせる自己伝達と、親や教師に伝えようとする他伝達とがあって、伝達が成立すれば快、不成立は不快である。

子どもが、絵を見せにくるとき、その絵に表された意味や感動の度合いをよく読みとってやることが大切である。

5. 子どもの「発見・感動」をいかに深めるか

(1) 教師自身がみずみずしい感覚を保つこと

子どもの驚きや発見を大切にするためには、題材との出会いが、感動的なものになっていなければならない。五感を働かせ体を通して題材に出会ったとき「すごい、きれい、作ってみたい、描いてみたい」等の感動が生まれる。

子どもたちの発達段階や興味・関心をおさえ題材の可否を決めるのが教師自身である以上、発想を豊かに子どもに働きかける教師自身のみずみずしい感覚を失ってはならない。子どもの経験や体験・夢を語らせ綴らせてそれを投げかえしたり、みんなと語り合うとき教師の話すことばが感動的であればある程、子どもは生き生きしてくる。

(2) 題材の研究を進め、試作すること

特に立体工作の場合、教師が試作に要した時間の3倍を子どもの制作時間とみる。教師自身、自ら制作してみて制作上の要点が確認でき、技法上の問題点をおさえ、指導への自信をもって授業へ臨むことが大切である。そうすることが、結果的にねらいにそった参考作品を見せることもできる。

描画にしても、たとえ自らが実際に上手に描くことができなくても、遠近・明暗をどう表現していくか、その要点をおさえることができる。技術・技法は、自分のえがいたイメージ表現のために必要なものである。教師の試作は、作品の良し悪しに関係なく子どもの表現意欲を高めるものである。

(3) 地域素材を掘り起こし、身近な題材として与えること

題材の取り上げ方についても発達段階に応じた子どもの興味や関心をひくものになっているかどうか、身近かで興味をひき易い地域の素材をどう生かしていくか、地域素材の開発・発見については、造形絵地図

などを作って、どこに写生の好適地があり、手に入り易い素材があるか記入しておくことも一つの工夫である。

6. 題材の指導段階の見直し

子どもが課題や問題を的確に受け止め、自己の能力を最大限に発揮して追求したり、友だちの意見や資料を使って解決のために努力しようとする「能力・態度」の育成は、学年学級経営を基盤とした日常の継続指導によって培われる。私たちは、今まで実施されている6段階の指導を次のような子ども主体の4段階に集約することができる。

(1) 事前指導の段階	①事前・準備・発想の段階	
(2) 発想 〃		
(3) 構想 〃	③構想・構成・計画の段階	
(4) 構成 〃		
(5) 表現 〃	③表現活動の段階	
(6) 鑑賞 〃	④鑑賞・自己評価の段階	

7. 一単位時間の学習指導過程の工夫

過程	児童の活動	教師の働きかけ
導入	・前時までの学習は何だったかの話し合い ・つくりたい意欲は起きたか 〃 ・表現課題は何か 〃 ・表現の手順・方法はどうしたらよいか ・どんな準備をしたらよいか ・頭の中の発想を具体的にどうするか ・構成・色のつくり方などはっきりする ・何をどのようにどんな順序でつくるか	・学習意欲の喚起 ・学習のねらいへの動機づけ ・本時の学習の資料提示 ・表現課題の提示と焦点化 ・表現方法・技法・手順の明確な提示（資料・作品） ・一斉・グループ学習の工夫 ・材料・用具の使い方の確認
展開	・自分の想に従って、よく工夫して製作する ・自己評価しながら製作する ・ねばり強く製作する。 ・友だちの作品のよいところを取り入れたりしながら集中して製作する ・相互評価しながら製作する	・指導方法の工夫 ・形成度の的確な把握 ・指導の個別化 ・表現のつまずきに対する指導 ・意欲を継続させる発問の工夫 ・自己評価・相互評価の重視
整理	・自分や友だちの作品のよいところ、直したいところを発表する ・今日の製作はよかったか反省をする ・どのように表現すればよかったか ・次の図工の学習は何か、どんな事を考えておくか ・しっかり後始末をする。	・評価基準に照らした作品を選び話し合わせる ・学習のしかたについて反省 ・表現の仕方・方法について ・次時の予告・想・準備など ・後始末の確認をする

<文責　西原　　進>

学習指導案

提　　言

公　開　授　業

校種	領域	題材	授業者	学校
保育所	絵画工作	魚つりをたのしむ	高野友子 奥村由美	紋別保育所
幼稚園	絵画	えのぐでしゃぼんだまつくり	折目昌子	紋別幼稚園
〃	〃	〃	坂下悦子	〃
〃	〃	〃	門井彰子	〃
小学校1年	造形遊び	つくってあそぼう	木山順子	紋別小学校
小学校2年	紙工作	なかよしの動物	小藏春雄	潮見小学校
〃 2年	デザイン工作	ストロー笛	佐々木雅栄	紋別小学校
〃 3年	彫塑	動いている人	小野寺宏二	紋別小学校
〃 4年	デザイン工作	歌う人形	渡辺智枝	紋別小学校
〃 4年	絵画	お話の絵	政二美紗	沙留小学校
〃 5年	版画	物語の版画	井上忠明	紋別小学校
〃 6年	絵画	紋別の町	山田明弘	紋別小学校
中学校2年	デザイン	オホーツクの旅人	金子定雄	雄武中学校
小学校 特殊学級	工作	ダンボールで遊ぼう （合同学習）	坂本勝雄 阿部鄰夫	潮見小学校 紋別小学校

＜学習指導案＞　保育所　絵画造形　5才児

魚つりを楽しむ

紋別市立紋別保育所
指導者　高　野　友　子
奥　村　由　美

Ⅰ　題　材　「魚つりを楽しむ」

Ⅱ　題材について

紋別という漁業の町に育ちながらも、魚の生態に今まで関心を持つ機会が少なかった。そこで、6月当初より市場見学や、色々な図鑑や絵本を見たり、簡単な絵画、造形活動に取り組むことにより、少しずつではあるが魚に興味を持ちはじめるようになり、更に海の中の生き物に対する個々のイメージが広がっていったように思う。その子ども独自の発想を大切にしながら、今までの活動の総まとめとして自分たちで色々なものを使って魚を作り、魚つりを楽しむ、というねらいのもとに、本時の活動を展開する。

Ⅲ　題材のねらい

- 魚の形や動きを知り、いろいろな表現をする。（身体的・絵画的）
- いろいろな用具の安全な使い方を知る。
- 身近な材料で、自分の作りたいものを工夫して作る。
- 作って遊ぶ楽しさを味わう。

Ⅳ　題材の指導計画　（14時間）

	ね　ら　い	具体的活動
第一段階	◦いろいろな魚を知り、観察する。 ◦魚の動きを知る。	◦市場見学 ◦絵本・紙芝居・図鑑 ◦ＴＶ視聴「できるかな」 ◦海のうた ◦ＴＶ視聴 ◦身体表現
第二段階	◦海の中の生き物を描く。 ◦いろいろな素材、用具の使い方を知る。	◦ぬり絵 ◦切りとり ◦観察画 ◦はじき絵 ◦壁面製作 ◦自由工作
第三段階	◦魚を作り、魚つりをして遊ぶ。	◦本　時

V　本時の学習

1.　ねらい

- いろいろな材料や用具を使って、海の中の生き物を作る。
- 魚つりを楽しむ。

2.　準　備

- スチロール容器・画紙・折紙・ストロー はさみ・のり・クレヨン・絵の具・マジック・接着剤・セロテープ・ホッチキス ちり紙・ガムテープ・台紙・ぬれタオル 積木・ゴミ袋・口金

3.　本時の展開

	指　導　内　容	児　童　の　活　動	指　示　・　助　言
導　入	◦きれいな声で元気よく歌うよう指導する。 ◦緊張感を取り除きながら行なえるよう最初は魚の名を指定し、徐々に自由表現にしていく。	◦集合する。 ◦朝のうたをうたう。 ◦身体表現をする。	
	◦身体表現での魚について話し合わせたり、室内飾りなどにより海の中の状態を考えさせながら、イメージを広げさせる。	◦海の中の生き物について話し合う。	
展　開	◦魚の形や特徴について考えさせながら作り方を話す。 ◦材料をあらかじめコーナーに分けておき、各自選ばせて活動に入る。 ◦早く完成した子に対しては、ちがうコーナーで、別の種類の作品を作るよう促す。	◦魚づくりをする。 ◦片付け	◦具体的に作るものが決められない子に対しては、ことばかけをしながら助言を与える。 ◦必要に応じて、道具類の正しい扱い方を知らせる。 ◦用具や残った材料を、きちんと片付けるよう声掛けをする。
	◦あらかじめ設定しておいた池のまわりに移動させ魚つりの遊び方を話す。	◦魚釣りをしてあそぶ。	◦なかなか釣れない子には、その都度指導する。
整　理	◦子供たちの作った、又は釣った魚を見せながら、ほめたり、評価し完成の喜びを味わわせる。	◦自分の釣った魚を見せ合う。 ◦今日の作品について話し合う。	

＜学習指導案＞　幼稚園　絵画　5才児

えのぐでしゃぼんだまつくり

紋別市立紋別幼稚園
指導者　折　目　昌　子
　　坂　下　悦　子
　　門　井　彰　子

Ⅰ　題　材　　「えのぐでシャボン玉作り」

Ⅱ　題材について

当園は、3才児5名、4才児32名、5才児35名の幼児を対象に、たて割り保育を実施しています。これは、異年令児の相互交流や接触を大切にすることによって園における保育形態を柔軟にしようという試みからです。その中での絵画製作の指導も、たて割り保育の性格を生かし、各年令の幼児がそれぞれの発達段階において、園での生活や経験を生かして十分に楽しめる内容にしています。

4月、子どもたちは筆にえのぐを含ませて、画用紙いっぱいに走らせた時の感触を味わい、えのぐ遊びに興味を持ちはじめました。その興味は、お話や毎日の生活や食べ物など身近な題材から絵画製作を楽しむことにより広がっていきました。こうしてえのぐ遊びに親しみ、イメージ豊かに表現できる活動を大切にしています。

Ⅲ　題材のねらい

- えのぐの色あそびを通して、えのぐ遊びに興味を持ち、えのぐの性質を知る。
- 材料や用具の使い方を覚える。
- 造形的な遊びを経験しながら、「生活経験の表現」「お話・空想の表現」といったイメージの表現へ発展させていく。

Ⅳ　題材の指導計画

一学期の絵画製作の指導（7時間）が、事前指導となります。

1. 色の渦巻き…線描の指導
   太い筆にたっぷりと絵の具をつけ、曲線を描く。色・用具の名前を覚える。材料・用具の使い方を覚える。
2. 毒入りりんご…補色混合の指導
   えのぐを混ぜて、明るい色・暗い色の使いわけを、白雪姫の童話を借りておいしいりんご＝明色、腐ったりんご＝暗色の色分けでつかむ。
3. 洗濯機の中…たらし込みの指導
   画用紙全体を洗濯機の中に見たてて、いっぱいに水を張り、赤いシャツや青いくつ下を入れて洗うことで、混色のにじみの効果を味わう。
4. 色のちらしずし…重色の指導
   重色の美しさを、ごちそう作りの色遊びを通して味わう。個人持ちえのぐの使い方を覚える。
5. スタンピング…版遊びの指導
   いろいろなものの型押しをし、写る楽しさ、写す喜びを味わう。
6. フィンガーペインティング…色遊び・ぬたくり遊びの指導
   手と体全体を使って、精神の解放をはかり、どろんこのような感触を楽しむ。

7. シャボン玉遊び…実際にシャボン玉遊びを楽しみ、色や感触を確かめ、イメージをふくらませる。

V 本時の学習

1. ねらい

- えのぐのたらし込みによる色のにじみを楽しむ。
- 透明色と不透明色の対比効果を味わう。

2. 準備

- 園児…スモック・絵具（三原色）・パレット
- 教師…白画用紙・画筆・筆洗・画版・タオル・乾燥棚

3. 本時の展開

	指導内容	児童の活動	指示・助言
導入	◦事前のシャボン玉あそびについて話し合う。 ◦子供から出たことばをひろいイメージをふくらませる。 ◦今日は、えのぐでシャボン玉をつくることを話し、意欲を盛り上げる。 ◦用具の確認をする。	◦シャボン玉についてのイメージを話す。	
展開	◦教師が実際にやってみせ、興味や意欲を持たせ、活動をスムーズにする。 ◦確認しながら、活動を見守る。 ◦目的のはっきりもてない子に、個人的に教師の働きかけをする。 ◦混色による無彩色作りをする。	◦話を聞く。 ◦三原色（赤・黄・青色）をパレットにつくる。 ◦画用紙の上に水たまりをつくる。 ◦水たまりに、色を流し込む。 ◦三原色をパレットの上で混ぜる。 ◦パレットにできた色で、画用紙のまわりからぬりせばめる。	◦えのぐは、「お豆ぐらい」の量を出すようにする。 ◦しゃぶしゃぶ（ゆるめ）につくる。 ◦筆は色ごとに洗い、きれいなものを使う。 ◦水はたっぷりつけ、大きめ小さめと色々つくる。 ◦一色でも、何色でもよい。 ◦ねちねち（かため）につくる。えのぐを補充しながらつくる。 ◦シャボン玉の形を残しながらする。
整理	◦たらし込みの効果を味わう。 ◦透明色（赤・黄・青色）と不透明色（赤・黄・青色の混色）の対比を味わう。 ◦後片付けをする。	◦作品を見せ合い、効果のちがいを話し合う。 ◦協力し、後片づけをする。	

4. 評価

- 園児…発達段階や年令に応じての色のにじみ遊びが味わえたか。
- 教師…題材は、発達段階に応じていたか。次回の題材につなげてゆける活動内容であったか。

＜学習指導案＞　造形遊び　　第１学年

つくって　あそぼう

学校名　　紋別市立紋別小学校
指導者　　木　山　頊　子

Ⅰ　題　材　　「つくってあそぼう」

Ⅱ　題材について

ダンボール、空き箱などは、子ども達のごく身近にある材料である。子ども達は、おやつの空き箱などをたから物入れにしたり、積み上げて遊ぶなど、日常生活の中で喜んで使い、また、少し大きめのダンボール箱には、入ったり出たり、あるいは、かくれんぼなどの簡単な遊びの用具として使っている。

ダンボールの空き箱は入手しやすく、一年生にとっては扱いやすく適度な丈夫さとやわらかさを持っている等、造形遊びの材料としてはすぐれた点を持っている。

身近にあるものがすぐに遊びの用具となるこの時期の子ども達に、意図的にダンボールと空き箱を用意し、材料から豊かに発想し工夫することにより造形遊びの楽しさを知り、また十分に手や体を使うことにより、造形活動の楽しさを味わわせたい。

Ⅲ　題材のねらい

1. 身近にある材料に関心を持って集め、それらから何をつくりたいか豊かに発想させる。
2. ダンボール、空き箱などを重ねたり、つないだりすることから、造形遊びの楽しさを味わわせる。

Ⅳ　題材の指導計画　（３時間扱い）

1. 事前指導
   - 空き箱などの材料になるものを各自集めておく。
2. ・発　　想
   - グループごとに、何をつくるか話し合う。
   ……４５分
3. 製　　作
   - 話し合いをもとに、イメージに合うようにつくる。
   - 小箱、飾りなどを工夫してつけ加えていく。

   ４５分（本時）
4. 鑑　　賞
   - 作品をみせあい、それらで楽しく遊ぶ。
   ……４５分

Ⅴ　本時の学習

1. ねらい
   - 集めた材料を使い、話し合ったものをグループ毎に協力しあい楽しくつくらせる。
2. 準　備
   - 教師…ダンボール、接着テープ、色画用紙など。
   - 児童…セロハンテープ、はさみ、空き箱

3. 本時の展開

	指導内容	児童の活動	指示・助言
導入	◦あつめた材料の中から、グループで作るものに必要なものを用意させる。	◦自分達に必要なダンボールをえらび用意する。	◦楽しく準備させる。 ◦作るものを確認させる。
展開	◦グループで話し合ったもののイメージに合うようにダンボールを並べさせる。	◦前時の話し合いをもとに、ダンボールを工夫して並べて遊ぶ。	◦ダンボールの大きさに注意して並べさせる。
	◦かたちづくりをしながら、ダンボールを、テープを使って接着させる。	◦出来上がったかたちをくずさないように接着していく。	◦テープの使い方を知らせる。 ◦くずさないように接着させる。
	◦出来上がった形に飾りをつけさせる。	◦接着したものに小箱・色画用紙などを使い、飾りをつけていく。	◦はりあわせたものを、少しはなれて、全体をみて飾りつけを考えさせる。
整理	◦出来た作品に入ったりひっぱったりしながら、自由遊びをさせる。 ◦後始末をさせる。 ◦次時予告をする。	◦工夫しながら楽しく遊ぶ。 ◦後始末をする。 ◦作品を使ってみんなで遊ぶことを知る。	◦意欲の喚起

4. 評価

・友だちと助け合って、楽しくつくることが出来たか。

・ダンボール・空き箱を使い、楽しく遊ぶことが出来たか。

＜学習指導案＞　小・工作　　第２学年

なかよしの動物

学校名　　紋別市立潮見小学校
指導者　　小　蔵　春　雄

Ⅰ　題　材　　「なかよしの動物」

Ⅱ　題材について

子どもたちにとって、猫や犬などは、身近な存在で興味・関心も高い。また、動物との関わりあいも多く持っている。楽しい思い、驚き、悲しみ、友だち、遊び相手などというように多種多様な思いや経験がある。低学年にとっては、猫や犬はまさに、自分と同等であるかのように思っている。これらの経験をもとに、身近な動物を生き生きと表現させたい。

紙を立てて立体として使い、折ったり、曲げたり、差し込んだり、はったり工夫することによって、子どもたちにとっての〝生きた友だち〟を表現させていきたい。

材質感も大きさもあるダンボール、ボール紙、画用紙、カラー工作紙など、素材を選択させることによって、子どもの願いがかなえられるようにしたい。

どんな動物にするのか、どのような経験を表出するか、どのような形にするか、素材を何にするか等、子どもたちに選択させることによって、表現の楽しみ、喜びにひたれるのではないかと考えた。

紙を切り取る、つけ加える、はる、採色することを通じ、立体の存在感、抵抗感をとらえさせたい。

Ⅲ　題材のねらい

1. 動物と遊んだ経験が、作品の中に実感として生きるようにさせる。
2. 素材の選択と、その生かし方を工夫させる。
3. 全体のバランス・強調点を考えさせる。
4. 生き生きとした表現にさせる。

Ⅳ　題材の指導計画　（５時間扱い）

1. 発想・構想
   - 何の動物を、どんな形にするか、どんな表情にするか、動物と遊んだ経験をもとに決める。……４５分
2. 製　　作
   - 素材を選択し、各自の思いにそった動物を作る。
   - 動物を組立て、採色したり、はったりして完成させる。

   135分（本時3/3）
3. 鑑　　賞
   - 各自の作品で思いを話す。……４５分

Ⅴ　本時の学習

1. ねらい
   - 動物を組み立て、表現を単純でとらえやすくする。
   - 採色したり、はったりして生き生きとした表情にする。
2. 準　備
   - ボール紙、画用紙、カラー工作紙、はさ

み、のり、水採道具、クレヨン

3. 本時の展開

	指導内容	児童の活動	指示・助言
導入	◦前時までの学習について確かめる。 ◦本時の学習内容を知らせる。 尾や耳・頭などの差し込みの角度や位置を確かなものにする。 色をぬったり、紙をはったりして、思いがあらわれるようにする。	◦前時までの学習をふりかえる。 ◦本時の学習内容をとらえる。	◦前時までの作品を使ってふりかえる。 ◦学習内容を確かなものとする。
展開	◦表現、表情を生き生きとしたものにさせる。 ・差し込みの角度、位置 ・採色、はりつけ ◦製作カードの表現、表情とくらべる。 ◦作品例を提示する。 ◦手直しをさせる。	◦製作カードをもとに作業をする。 ・差し込みの角度や位置を確かめる。 ・生き生きとした表情になるように採色、紙はりをする。 ・参与作品をもとに手直しをする。	◦表現を単純化する。 ◦強調点をはっきり表現する。 ◦机間巡視により作業の遅い子の指導。
整理	◦取り組みを反省させる。 ◦次時の予告をする。	◦製作カードに反省する。 ◦次時の学習について知る。	◦自己評価

4. 評価

・製作カードをもとに作ることができたか。

・生き生きとした表情にすることができたか。

・意欲的な取り組み方であったか。

＜学習指導案＞　工　作　　第２学年

ストローぶえ

学校名　　紋別市立紋別小学校
指導者　　佐々木　雅　栄

Ⅰ　題　材　　「ストローぶえ」

Ⅱ　題材について

子どもたちの身の回りには、いろいろな音がある。また、日常生活に使っているものの中にも音をつくれるものがたくさんある。その中で身近にあるストローを使って、いろいろな音をつくり、その音から想像する動物の声や楽器の音色等にふさわしい形や飾りを工夫して夢にあふれたストロー笛をつくる。

このことによって、身の回りにあるものの中にも自分たちの生活を楽しくするものがたくさんあることに気づかせつくり出す喜びを味わわせたい。

Ⅲ　題材のねらい

1. 参考作品からいろいろな音を想像し、自分で工夫してつくる喜びを味わわせる。
2. 自分でつくったストロー笛の音にふさわしい色や形・模様・飾りを工夫して、音の感じをより効果的に表現させる。
3. ２種類の筒の作り方を知り、自分のイメージに合った筒づくりをさせる。
4. 紙の厚さのちがいによるはさみの使い方や接着のしかたを工夫させる。

Ⅳ　題材の指導計画　（５時間扱い）

1. 発　　想
   - 参考作品を見て、自分で出してみたい音を考える。
   - ストローで吹き口をつくって鳴らしてみる。

   ４０分

2. 製　　作
   - 音を確かめながら、いろいろな長さの吹き口をつくる。
   - 自分で出してみたい音を選び出す。

   ５０分

3. 構想・構成
   - どんな笛にするか考え、アイディアスケッチをする。
   - 筒の作り方を知り、試作する。

   ４５分

4. 製　　作
   - アイディアスケッチをもとに筒を製作し、ストローと結合する。
   - 音に合った模様や飾りをつける。

   ８０分（本時）

5. 鑑　　賞
   - ストロー笛を使って、いろいろな遊びをする。

   １０分（本時）

Ⅴ　本時の学習

1. ねらい
   - 音のイメージに合った模様や飾りを工夫させ、笛を鳴らして楽しく遊ばせる。
2. 準　備
   - 教師…はさみ、接着剤、セロテープ、おり紙、色画用紙、ストロー
   - 児童…はさみ、接着剤、セロテープ、おり紙、手ふき、せんたくばさみ、

ストロー

3. 本時の展開

	指導内容	児童の活動	指示・助言
導入	◦本時の学習課題について話し合わせる。	◦自分の笛の模様や飾りつけについて発表する。	◦自分の笛の模様や飾りつけを確認させる。
展開	◦笛に模様や飾りつけをさせる。 ◦試し吹きをさせる。	◦おり紙や色画用紙を使って、自分のイメージに合った模様や飾りつけをする。 ◦出来上がった笛で音を試してみる。	◦机間巡視し、個別指導をする。 ◦はさみやのりの使い方を指導する。 ◦出来上がった子は、試し吹きをさせる。
整理	◦友だちの笛の良い所を見つけさせる。 ◦後仕末をさせる。	◦友だちの笛を見たり、聞いたりして話し合う。 ◦出来上がった笛を鳴らして遊ぶ。 ◦使った用具の後仕末をする。	◦よい所、工夫している所を見つけさせる。 ◦歌を歌ったり、言葉遊びをさせる。

4. 評価

・音のイメージに合った模様や飾りつけの工夫ができたか。

・笛を鳴らして楽しく遊ぶことができたか。

＜学習指導案＞　彫　塑　　第３学年

動いている人

学校名　　紋別市立紋別小学校
指導者　　小野寺　宏　二

Ⅰ　題　材　　「動いている人」

Ⅱ　題材について

これまでの彫塑学習を振返ってみると「すきなものをつくろう」で粘土に親しみ、「どうぶつあそび」で立つことを、「動物の親子」で大小関係を、「たかいたてもの」で高さを中心に、それぞれ学習してきている。

３年生になると、力いっぱい体を動かすことが好きである。図工科では、なるべく本物らしくつくろうと考えるようになり、大胆な表現をちゅうちょし、作品が小さくまとまったものになりやすい。この題材を通して、力強い動きのある表現のおもしろさに気づかせたい。そこで、運動している自分、遊んでいる自分など、具体的なイメージを持たせ、その時の気持ちを粘土に託せば、大胆で、生き生きとした動きのある表現ができると思う。

又、今までは、油粘土の経験だけしかなかったが、今回、錦町でとれる土粘土を使用し、新しい素材への興味ともあいまって、より意欲的に活動できると思う。

Ⅲ　題材のねらい

1. 運動したり、遊んだりしたことを全身で表現させる。
2. 生き生きとした動きを大づかみな塊として表現させる。
3. 粘土のひねり出しや、部分の接合の仕方に慣れさせる。
4. 土粘土の扱い方を知らせる。

Ⅳ　題材の指導計画　（４時間扱い）

1. 事前指導
   - 粘土づくりをする。……
   - 粘土遊びをする。……　　４５分
2. 発　　想
   - 何をしているところをつくりたいか考える。……１５分
3. 構想・構成
   - 動作化する。……
   - 粘土クロッキーをする。……　　３０分
4. 製　　作
   - 大づかみにつくる。……
   - 部分に気を配り、細部をつくる。　　６０分（本時）
5. 鑑　　賞
   - 互いに作品を鑑賞する。……３０分

Ⅴ　本時の学習

1. ねらい
   - 構想にしたがって、生き生きとした動きを大づかみな塊として表現させる。
   - 粘土のひねり出しに慣れさせる。
2. 準　備
   - 教師…粘土、粘土板、粘土べら、資料、参考作品、補助材
   - 児童…雑巾、ビニール袋、新聞紙

3. 本時の展開

	指導内容	児童の活動	指示・助言
導入	◦本時の学習課題を把握させる。 （大づかみ） （動　き） （ひねり出し）	◦何をしているところをつくるのか確かめる。 ◦前時の粘土クロッキーを鑑賞する。	◦2～3人発表させる。 ◦ひねり出しでつくることを確認させる。
展開	◦大づかみな塊としてつくらせる。	◦大づかみにつくる。 ◦手足の動き、頭や体の方向などを強調してつくる。 ◦回しながらつくる。 ◦その時の気持ちを思い出しながら全体の感じをたしかめる。	◦作品の大きさ、高さに気をつけさせる。 ◦不安定なところには、補助材を使用させる。 ◦周りから見回すように作品を見させる。 ◦時々手を湿らせる。
整理	◦できあがったところまでの友だちの作品を見させる。 ◦次時の予告。	◦お互いの作品を見せ合う。 ◦簡単な感想を発表する。 ◦部分に気を配り、細部をつくることを知る。	◦力強い感じが表現できたか。 ◦後片付けをしっかりさせる。

4. 評　価

・生き生きとした動きを表現することができたか。

・粘土の特性を知り、ひねり出しでつくることができたか。

＜学習指導案＞　工　作　　第４学年

歌　う　人　形

学校名　　紋別市立紋別小学校
指導者　　渡　辺　智　枝

Ⅰ　題　材　　「歌う人形」

Ⅱ　題材について

子供たちは、工作について大変興味もあり、意欲もある。特に４年生にもなると、平面より立体へ、静的から動的へと発達段階を経て手先も器用になってくる。そこで身近にある材料を生かして、頭や口の動く人形を自分のアイディアを生かしてつくり、それを使って楽しく遊ぶことは、４年生のねらいである「身近かな扱いやすい材料を生かし、それに適した用具を使うなど、工夫して表す」を達成するために適切な題材である。また、人形は子供たちに夢を与えるもので、自分のできない夢を人形に託し、子供の創造性を培い、彫塑的造形要素を膨らますとともに、想像の世界も広げるものである。

Ⅲ　題材のねらい

1. 身近にある材料を利用して、頭や口が動く人形をつくり、劇遊びをして楽しむ。
2. 子どもに夢を与え、想像の世界を広げ、つくる楽しさを味わわせる。
3. 動きに合った表情の豊かな人形をつくる。
4. 材料を効果的に使うとともに、主題に合った表現をさせる。
5. 動きに適した材料を選んで、丁寧な接着の仕方でつくり上げる。
6. 人形の動くしくみの取りつけに気をつけ、丈夫な組み立て方をくふうさせる。

Ⅳ　題材の指導計画　（４時間扱い）

1. 事前指導
   - 材料、用具の準備をする。（点検する）
2. 発　　想
   - 教科書Ｐ21を見て話し合い動く仕組みについて理解させる。……１５分
3. 構想・構成
   - どんな人形をつくるか構想を練り、アイディアスケッチさせる。……３０分
4. 製　　作
   - アイディアスケッチをもとに作品を製作させる。
   - 頭、口の動く仕組みをつくらせる。
   - 頭髪、体を、色紙、毛糸、布を利用してつらせる。

   ｝４５分
   - 色紙、色画用紙で顔の表情をつくらせる。
     ……４５分（本時）
5. 鑑　　賞
   - 作品を鑑賞し、劇遊びをさせる。
     ……４５分

Ⅴ　本時の学習

1. ねらい
   - 自分の考えに合うように、表情豊かな人形を製作させる。
   - 接着剤をむだなく上手に使わせる。

2. 準　備

・教師…参考作品、色画用紙

・児童…前時までに作っていた作品、アイディアスケッチ、毛糸、布、色紙はさみ、カッターナイフ、接着剤

3. 本時の展開

	指導内容	児童の活動	指示・助言
導入	◦前時までの学習を想起させる。 ◦本時の学習課題を確認させる。 表情を工夫して、人形をつくりましょう。 接着剤を上手に使いましょう。	◦前時までの学習を思い出す。 ◦本時の学習を確認する。	◦人形を動かしたり、アイディアスケッチを見させる。
展開	◦いろいろな表情について気づかせる。（喜び、悲しみ、おどろきなど） ◦顔をつくらせる。 ◦作品の仕上げをさせる。	◦いろいろな表情について気づく。 ◦顔をつくる。 ◦手やかざりをつける。	◦色画用紙を使ったり、ＯＨＰでアイディアスケッチを見せ表情の変化について気づかせる。 ◦机間巡視をする。 ◦表情の工夫をさせる。 ◦接着剤を上手に使って仕上げさせる。
整理	◦本時のまとめをさせる。 ◦次時予告。	◦作品を動かしてみる。	とれたり、はがれたりしていないか確かめさせる。 ◦かんたんな遊びをさせる。

4. 評　価

・自分の考えに合うように、表情豊かな人形を製作することができたか。

・接着剤をむだなく上手に使うことができたか。

＜学習指導案＞　絵　画　　第４学年

お話の絵（想像画）
～海のお話をつくる～

学校名　興部町立沙留小学校
指導者　政　二　美　紗

Ⅰ　題　材　　「お話の絵　～海のお話をつくる～（想像画）」

Ⅱ　題材について

想像画は、絵画の中でも形式にとらわれる部分が少なく、子供達が伸び伸びと表現活動に取り組むのに最も適した領域であると思う。

そして、ここではさらにイメージをふくらませやすくするために、発想のテーマを、沙留の子供達にとって身近な「海」とした。

しかし、逆に「海」が日常的であり過ぎるために新鮮さに欠けたり、マスコミ等に「美しい海の風景」を概念づけられてしまうこともあり、風景画として描かせても、ありふれた観念的な作品に終わることが多かった。

この題材では「海」の表面だけでなく、一人一人のそこからくる思い出、イメージ、想像したことなどの全ての要素をとり入れた画面構成をする。こうした表現活動は、子供達に自分が主人公であり語り手であるドラマをつくり出す喜びを与えてくれるのではないだろうか。そして、自分の描いた絵から、さらに豊かな発想が広がっていく感動を味わわせたい。

Ⅲ　題材のねらい

1. 詩を読み、「海」での体験やそれについての知識から広く自由な発想をさせる。
2. 心に描いたイメージを、内容を盛りだくさんに表現させる。
3. 構成や色の作り方、ぬり方などを工夫し、活気のある画面をつくり出させる。

Ⅳ　題材の指導計画　（８時間扱い）

1. 事前指導
   - 実際に海へ行き、詩をつくらせる。（国語科、社会科関連）
   - 絵の具の使用法を徹底させる。
2. 発　　想
   - 自分や友達の書いた詩から『海』のイメージを広げさせる。……３０分
3. 構　　想
   - 描きたいと思うことがらを幾つか見つけさせる。……１５分
   - アイディアスケッチをし、画面構成を考えさせる。……４５分
4. 表　　現
   - スケッチを見ながら、下絵をていねいに描かせる。……４５分
   - 絵の具による効果を考えながら、彩色させる。……180分（本時¼）
5. 鑑　　賞
   - 友達の作品を見て話し合わせる。……４５分

V　本時の学習

1.　ねらい

・絵の具のにじみや、混色などによる効果を考え、ていねいに彩色させる。

2.　準　備

・児童…四ツ切画用紙（下絵の描かれたもの）、絵の具（パレットに出し硬めてある）、筆

3.　本時の展開

	指　導　内　容	児　童　の　活　動	指　示　・　助　言
導入	◦下絵の段階で描いていたイメージを確認させる。	◦下絵を見て、自分の描きたいイメージを確認し、着彩計画を練る。	◦描こうとする全体のイメージを考え、おおよその色を決めさせる。
展開	◦イメージに合う表現法や色を工夫しながら、彩色させる。 ◦机間巡視し、気付いた点を注意する。	◦絵の具のにじみを利用したり混色することで変化のある画面をつくる。	◦絵の具はできるだけ混色して使わせる。 ◦同色の多用は避けさせる。 ◦水加減を利用し、画面に変化をつけさせる。 ◦隣接する箇所は乾いてからぬらせる。 ◦画用紙の地の色を残さぬように、ていねいにぬらせる。
整理	◦良い表現をとり上げ紹介する。	◦友達の良い表現や色の使い方などを見て、次時への課題を持つ。	◦どのような点が良いのか話し合わせる。

4.　評　価

・色のつくり方による効果を工夫して彩色できたか。

・自分の持つイメージを大切にし、楽しく、意欲的に取り組めたか。

＜学習指導案＞　版　画　　第５学年

物　語　の　は　ん　画

学校名　　紋別市立紋別小学校
指導者　　井　上　忠　明

Ⅰ　題　材　　「物語のはん画」

Ⅱ　題材について

物が十分に与えられて満足している子供達に欠けているのは、心情の世界である。日常生活の中でも物事に感動する心の現れが薄いようである。高度に情報網が発達した現在、児童の知識は、ますます豊富である。だが現実的には、物事を深く考えるとか、じっくりと読書をするようなことを好まない児童も多い。また、空想や想像をすることは好きであるが、いざイメージの形象化を図るとなると、思うようにいかないようである。

物語は、人と人、人と動物、そして、種々なものとの心の触れ合いを語り、想像豊かな世界にくい込むことができるので、物語の絵は、心情を培うよい題材である。この物語から、強く心を打たれた場面を生き生きと版画で表現するには、イメージの形象化の工夫が必要であるが、さらに効果的構図の工夫、下絵から転写、彫り、刷りと一連の製作過程を主体的に学習させたい。

Ⅲ　題材のねらい

1. 強く心を打たれた場面をイメージし、それを深めて明確に表現させる。
2. 主題を効果的に表す構図を考え、白と黒を大胆に表現させる。
3. 刀の効果的な使用を工夫し、上手に刷らせる。

Ⅳ　題材の指導計画　（９時間）

1. 事前指導
   - 読書を通して感動した場面を絵に表現する。
   - 木版画の作品を掲示し、刀の使い方、彫り方について話し合う。
2. 発　　想
   - 教科書や参考作品をみながら、物語の版画について話し合う。……１５分
3. 構想・構成
   - 物語を聞き、感動した場面をスケッチし、下絵をつくる。
   - 主題をはっきりさせ、細かい部分は除き大きく表現する。

   ９０分
4. 表　　現
   - 下絵を版木に写し、墨入れをする。……４５分
   - どこを何刀で彫るか順序を考え、落ちついて彫る。……180分(本時¾)
   - 試し刷りも含め、修正しながら本刷りをする。……４５分
5. 鑑　　賞
   - お互いに作品をみて、彫りや刷り、表現について鑑賞する。……３０分

V　本時の学習

1.　ねらい

・対象のもつ質感、量感、遠近、重なりの表現方法を工夫させる。

・刀の性質をよく理解し、安全な使い方に慣れ、一刀一刀工夫して彫らせる。

2.　準　備

・教師…彫刻刀、カード、彫刻作業台、フェルトペン、版画の資料（展示）

・児童…下絵を書いた版木、下絵、彫刻刀、彫刻作業台、くず入れ袋

3.　本時の展開

	指　導　内　容	児　童　の　活　動	指　示　・　助　言
導入	◦学習材料の確認をさせる。 ◦前時の復習をする。 刀の使い方	◦学習材料の確認をする。 ◦刀の扱い方、彫り方について実践の発表をする。	◦自分の版をみて発表
展開	◦本時のめあてを知らせる。 ＜カード提示＞ ◦本時のだいたいの彫る場所の予定をたてさせる。 ◦一刀一刀心をこめて彫らせる。	◦カードを見て本時の学習のめあてがわかる。 ◦各自の構想に従って、どこをどの刀でどこまで彫るか予定をたてる。 ◦一刀一刀心をこめて彫る。	◦めあてを徹底させる。 ◦刀の持ち方、彫り方について ◦無感動な機械的な彫り方にならないようにする。 ◦彫刻刀で書いていくような気持ちで彫る。
整理	◦苦労したところや困ったところを話し合わせる。 ◦めあてについて反省させる。 ◦次時予告	◦苦労したところや、困ったところを発表する。 ◦めあてについて反省する。	

4.　評　価

・表現方法を工夫することができたか。

・場面のイメージをこわさないように彫り進めることができたか。

・刀を安全に扱うことができたか。

＜学習指導案＞　絵　画　　第６学年

紋　別　の　ま　ち

学校名　紋別市立紋別小学校
指導者　山　田　明　弘

Ⅰ　題　材　　「紋別のまち」

Ⅱ　題材について

紋別小学校の写生会の題材としては、１年「大きな学校をかこう」、２年「学校をかこう」、３年「鉄道をかく」、４年「神社をかく」、５年「紋別港をかく」となっている。そして、６年ではこの「紋別のまち」を扱うことになっている。

身近な特徴のある建物を、視点を限定したかき方から重なりや遠近をだせるものをえがけるように学習をすすめてきた。６年では、紋別駅前周辺のまちなみを造形的に見直し、画面構成をさせながら、広がりや奥ゆきのある表現を学ばせたい。そのために、遠近法の基礎、りんかく線のかき方を理解させるようにしていきたい。また、質感をだす彩色の仕方も大切だろう。

また、紋別の子として、紋別のまちなみや建物の特徴を再認識し、郷土への愛着の念を一層深めるようにしたい。

Ⅲ　題材のねらい

1. 紋別の街をていねいにスケッチすることで、郷土の特色や美しさを再認識させる。
2. 風景の奥行きを感じるような構図にまとめてかかせる。
3. 自分のイメージに合った色づくりをし、建物の明暗をぬりわけて立体感をださせる。

Ⅳ　題材の指導計画　（８時間扱い）

1. 事前指導
   - 短時間でスケッチする練習をさせる。
   - 厚紙フレームを使って風景をかく練習をさせる。

   ｝課外
2. 発　　想
   - 写真や参考作品を見て、紋別のまちの何をかくか考えさせる。……２５分
3. 構想・構成
   - 構図のとりかたを理解させる。…２０分
4. 表　　現
   - 現地へ行って、わりばしペンで下絵をかく。　……１３５分
   - 教室で彩色させる。……135分（本時⅓）
   - 仕上げをする。　……２５分
5. 鑑　　賞
   - 自己評価をし、掲示させ、友達の作品を鑑賞させる。　……２０分

Ⅴ　本時の学習

1. ねらい
   - 筆使いに注意して、自分の見つけた色をていねいに彩色させる。
   - 色の明暗などで、立体感がでることを理解させる。
2. 準　備
   - 教師…写真、参考作品、画版
   - 児童…水彩用具、下絵のできた作品

3. 本時の展開

	指導内容	児童の活動	指示・助言
導入	◦本時の学習課題を把握させる。	◦建物はどのように彩色したらよいか。	
展開	◦彩色するうえでの注意点を確認させる。 ◦彩色させる。	◦参考作品をみて気づいた点を発表する。 ◦彩色する。	◦参考作品を見せる。 ◦見比べて、どのようにしたらよいか発表させる。 ◦彩色したい色がみつかるまで混色してつくらせる。 ◦光の方向を考えさせる。 ◦筆はおくようにして、彩色させる。
整理	◦友人の彩色の例を示し、参考にさせる。	◦友人のよいところを見つける。 ◦自己評価して発表する。	

4. 評価

・筆使いに注意して、十分に混色し、彩色していたか。

・色の明暗に注意して立体感を出そうと努力していたか。

＜学習指導案＞　中・デザイン　　第２学年

「デザイン・オホーツクの旅人」

学校名　雄武町立雄武中学校
指導者　金　子　定　雄

Ⅰ　題　材　「デザイン・オホーツクの旅人」

Ⅱ　題材について

オホーツク海を一望できる丘に建つ校舎、窓から見える風景は最高のモチーフである。しかし、生徒達の目は、毎日唯なんとなく見え接しているにすぎない。そこにはオホーツクの海への感動はない。管内のトップを切って「流氷」の訪れる町であることにも生徒達にとって関係のないことでもある。生徒達は今日まで唯の一度も「心の眼」で「流氷」を見る機会は与えられなかったのである。地域の教材化が盛んに提唱されて親しいはずなのに。

オホーツク沿岸の町で最も早く流氷が訪れる町「雄武」そしてその流氷が春への休息と豊漁を持たらしてくれる。やがて岸を離れ去る海明け、この様子は、春の息吹きであり春の謳歌であり、まさに「オホーツクの旅人」であるのだ。単に流氷と見るのではなく、この沿岸に住む者たちにとって、流氷への「ロマン」を「想い」を抱ける感性豊かな生徒を願い設定した。

Ⅲ　題材のねらい

- 身近な自然にめをむけ、測り知れないオホーツクの美しさを表現させ味わわせる。
- オホーツクの海明け、その感動をイメージ化し素直に表現し、自然の大きさを感知させる。
- オホーツクの旅人と見立て発展させ、表現を工夫しポスターへ発展させ意欲的に表現させる。

Ⅳ　題材の指導計画　（16時間扱い）

＜第一次＞

1. オホーツクの海に関心を持たせ、自分たちの住む町について知る。……1
2. 流氷の厳しさ、美しさを心に描き、イメージスケッチをする。……1
3. イメージスケッチをもとに、画面構成を工夫し下絵を描く。……2
4. イメージをもとに着彩を工夫し、効果的に画面作りをし作品づくりをする。……4

＜第二次＞

1. 第一次作品を鑑賞し、発展させてポスターのデザインをする。（ポスターとは）…4
2. 文字のデザインをし、美しくレタリング、レイアウトし画面構成をする。……2
3. "オホーツクの旅人"のポスターとして完成させ鑑賞する。第三次へ発展。

……2（本時 $\frac{15}{16}$）

Ⅴ　本時の学習

1. ねらい
   - テーマを十分理解し意欲をもってデザインすることができる。
   - 文字のレタリング、画面構成（効果）を

考え、制作することができる。

2. 準　備

・カッター、教科書

・ハサミ、接着剤、カッター板、その他

3. 本時の展開

	指　導　内　容	生　徒　の　活　動	指　示　・　助　言
導入（発想・確認）	◦前時の学習内容を反省させ学習のねがいを確認させる。 ◦本時の学習を確認させる。 （到達目標の把握）	◦自分の学習をふり返えり、学習のねがいを再確認する。 ◦本時のめあてを知る。 ＊作品完成にむかう心を、それぞれが確認する。	◦オホーツクの旅人へのロマン、・気づかなかった理由・本時への意欲。
展開（意欲→創造）	◦文字のレタリングを確認しカッター（又はハサミ）で切りぬきをさせる。 ◦完成させた文字を画面（作品）にレイアウトさせ、位置を決定させ、接着剤で固定、完成へと近づかせる。	◦与えられた（約束）文字をレタリングし、それをもとにカッター（又はハサミ）で切っていく。 ◦画面の効果、ねがいを十分考えさせ、文字を配し、接着させる。	◦レタリングの完成。 ◦カッター、又はハサミの使い方の工夫。 ◦最も美しく ◦ねがいが達成されるためにどう配置したらよいか。
発展（再発見）	◦学習のまとめをさせる。 ◦自分達の作品についての感想を発表させる。 ◦本気になって、自分たちの生活の場を見、そして美しさを発見し、再現する意欲をもたせる。	◦自己の作品を鑑賞し、感想をもち、発表することができる。 ◦本気で「流氷」を見、考え感じ、表現する意欲をもつことができる。	◦オホーツクの旅人とは何か。 ◦今後の見通しを持ち、やがて訪れる「流氷」への想いを深め、意欲をもたせたい。

4. 評　価

・オホーツクの旅人へのねがいをこめてデザインすることができたか。

・画面構成（色彩、文字の配置等）が、ねがい通りできたか。

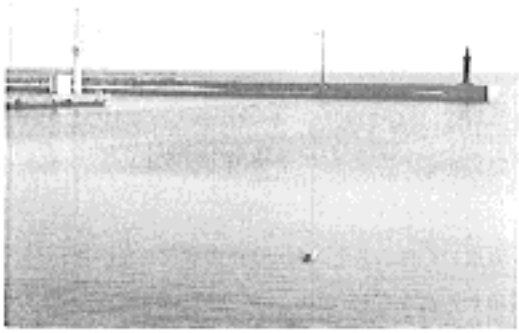
▶デザイン「オホーツクの旅人」へのプロローグ◀

1. 学習以前

遠くアムール河の流れが、はす状の氷となってオホーツク海に流れ出る頃、北の大地は白銀の世界の中でひっそりと冬ごもりに入る。

オホーツクの海が、この時ほど美しく見える時はないと私は思って来た。白とブルーのコントラスト、何をどのように表現しようと文字や言葉では言い尽せないと私は思うのである。

そんな、とてつもなく美しいオホーツクの沿岸に、遠く１３００年前から先住民族が住み豚々と生き続けて来たのである。この人間と自然との営みは、子供達の住む「雄武の町」も同様であるばかりでなく、今尚、多くの遺跡群が物語ってくれているだけに、他のどの町よりも美しく、海と山の幸が豊かであったのである。



この環境の中で人々は様々な生き方をしながらも、懸命になって北の風土を築きあげて来たのである。

＊　＊　＊　＊

今日、言われる事の中に、地域に根ざした教育、地域の教材開発等と言われているが、美術科における地域の再発見が、地域に住む子供達自身に「目ざめさせ」「発見させる」事が大きな課題となる。

不安だらけの状態で、新任の教頭として赴任した私である。幸い美術科の授業を１・２年合計で週１２時間、美術室で生徒を迎える時が「最高」（正直な心境である）。

地域の素材をいかに発見するか、子供達自身が教師のほんのひと言で、どう発見、気づくことができるか、このことが大きな課題である。「流氷」来る町の子供達、彼らは、流氷をどのように見、感じて来たのだろうか、美術室の窓から、その他の窓から、流氷が接近してくる姿を、白い氷原のオホーツクの海を、そして２月の下旬から始まる「海明け」の光景を、彼らがどう見て来たのだろうか。私は着任する前から思った。

2. 何故〝オホーツクの旅人〟なのか

どこで生まれて、どこで育ったのか。そのことが自分の人生においてどうだったのか。流氷の来る町「雄武」に生まれて、そして育って来た。毎年、絶対流氷が接岸し、白い氷原で海は消える。浜は漁師たちの休息の季節が来る。やがて、オジロワシの翼が力強く春一番の風を吹かすと岸辺を離れだす……この時の光景は壮観であろう。（私はまだ見ていない……が）

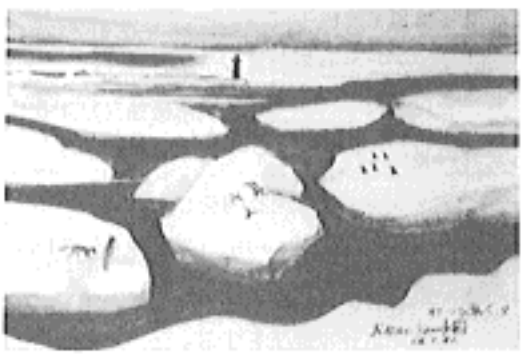
流氷の群は、それぞれが、まるで家族のように大小様々な群をなして岸を離れる……。私はこの光景を思う時、それはまさに、「出発」・たびだち、であると思いたいのである。

こんな事を思いながら、子供たちの「美術」の学習計画を話し、私自身の紹介をする。そして美術の学習が始まった。２年生の子供たちが美術室へ入った時、最初に板書した文字が「オホーツクの旅人」＝絵画表現＝であっ

た。口々に、「えー、何それ～」「変なの～」とささやき合っていた。雄武の町に生まれて１２年（１３年）もの心つきだしてからでも８年。「みんなは、素晴しいもの、素晴しい光景を見て来た」、それは何であるか……。誰れも気づかない……。「流氷」それは、まさに〝オホーツクの旅人〟だと先生は思うのです。「それを今日から精一杯想い出して描いてもらいます……。」

3. 授業が展開された。(生徒の感想文から)

〝描けない／見ていなかった、忘れてしまった、むずかしい、めんどくさい、絵はきらいだ、次から次へと出てくる言葉。当然、予想していた事ではあったが、私は、何とかしてこの学習を成功させたかった。４月、５月当然ながら「流氷」は「旅人」として去っていた。



▶２年　ＹＵＫＡ

私は、先生の話を聞くまでは、とても流氷なんて思い出せなくて描けないと決めつけていました。でも、先生だって遠い以前に少し見ただけなのに、あんなに上手に描いているんだから、１０年間も「雄武」で「流氷」を見ながら育って来た私なんだから……描ける。私たちなんだから描ける……と思いました。

実際に描いていくと、やっぱりむずかしかった。でも美術室の窓から見える「雄武」の海を見ながら流氷を思い出しながら描きました。

自分では、最高の作品にしようと努力しました。流氷は、冬の海の主ですよね、先生……。

▶２年　Ｊ．ＳＡＴＯ

ぼくは、オホーツクの旅人は何かと思ったが、先生は、流氷の親子のことを語った。その時、初めて流氷が、はるか遠くから流れて来て、やがて去っていく……。旅人と言う意味がわかりました。流氷のことに目をむけて取りくんでみたいと思いました。とにかく初めて自分自身、満足した作品づくりが出来たと思っています。

▶２年　ＥＭＩ

なんで、流氷なんか今頃描かなければならないの……。１３年間、流氷の見える町に住んでいやでも流氷を見ていたのに、描いてみると、何にも知っていなかった私／とても、とても情けなく思った。

＜学習指導案＞　工　作　　市内特殊学級

ダンボールで遊ぼう

学校名　紋別市立潮見小学校
指導者　坂　木　勝　雄

学校名　紋別市立紋別小学校
指導者　岡　部　輝　夫

Ⅰ　題　材　「ダンボールで遊ぼう」

Ⅱ　題材について

遊びについては子ども達にとって楽しいものであり、心身の発達にとって重要である。

しかし障害の重い子の精神活動は他人をほとんど意識せず自己中心的で、気ままに動くか、何もしないかである。そうした子どもの気持ちを何によって興味づけさせるか、またその子なりに活動させるかを中心として題材を選ぶことが大切である。

紋別市内の特殊学級には障害の重い子、情緒障害、言語障害等障害程度が重度化し多様化の傾向にあり、一学級あたりの児童数が少なくなってきている。また、健常児学級との交流も無理が多く学級内にとじこもる傾向にある。この様な実態の中で障害をもつ児童が集まり集団学習する場を設定した。

この題材「ダンボールで遊ぼう」では、学級の遊びの中で使用しているダンボールで乗り物を作り、市内の児童が集まり、集団でダンボール遊びをすることにより学級で味わうことのできない、おもしろさ、楽しさを経験させる。

Ⅲ　題材のねらい

1. 大勢の友達と一緒に楽しく遊ばせる。
2. 遊びを通していろいろな約束ごとを知り実行させる。
3. 他校の友達との新しい経験にふれ、伸び伸びとふるまうようにさせる。
4. 共同製作学習を通して、協力して一つの作品をつくりあげる喜びを味わせる。

Ⅳ　題材の指導計画　（１１時間扱い）

1. 発　　想
   - 乗り物に乗って旅行した経験を話し合う。
   ……（学級独自）４５分
2. 構想・構成
   - どんな乗り物があるか話し合う。
   ……（学級独自）４５分
3. 製　　作
   - ダンボールで乗り物をつくる。
   ……（学級独自）315分
4. 製作・鑑賞
   - ダンボール遊びをする。
   ……（合同学習）４５分(本時)
5. 鑑賞(反省)
   - 合同学習をふりかえって話し合う。
   ……（学級独自）４５分

Ⅴ　本時の学習

1. ねらい
   - 他校の友達といっしょに楽しく学習するようひさせる。
   - 約束ごとを守り、楽しく遊ぶようにさせ

る。

2. 準　備

・教師…レコード、セロテープ、ホチキス、
　　指示板

・児童…のり、カッターナイフ、はさみ

3. 本時の展開

	指　導　内　容	児　童　の　活　動	指　示　・　助　言
導入	◦本時の学習内容を知らせる。 ◦「手をたたきましょう」を斉唱させる。（動作化） ◦自己紹介させる。	◦元気よくレコードに合わせ斉唱する。 ◦学校名、学年、名前を発表する。	◦教師も一緒にうたう。 ◦ことばのない児童には助言する。
展開	◦乗りもののしあげをさせる。 ◦ダンボール遊びをすることを知らせる。 ◦グループにわけさせる。 ◦交代して遊ばせる。 ◦「手をたたきましょう」を元気よく斉唱させる。	◦前時までの学習をふまえて作業する。 ◦教師の援助ではじめる。 ◦できあがった作品を見る。 ◦遊び方のルールを知る。 ◦順番をきめゲームを楽しむ。 ◦手足を上手につかう。 ◦大きな声で元気よくうたう。	◦各自のとりくみをみて指導する。 ◦全員が楽しめるようなルールにする。 ◦動作の緩慢な児童に配慮する。 ◦教師も元気よくうたう。
整理	◦あと片づけと次時予告	◦分担して片づける。 ◦簡単に感想を発表する。	

4. 評　価

・みんなと一緒に楽しく遊ぶことができたか。

第37回　全道造形教育研究大会・紋別大会　分科会一覧

分科会		選択テーマ	選択領域
1	保育園	1. 子供の発達にそくして、生き生きと活動させるには…。 2. 子供の心を満足させる活動をさせるには……。 3. 夢中になって挑み、創る楽しさを味あわせるには……。 4. 身体ごと楽しむまで、色や形の美しさを感じるように。	全領域
2	幼稚園		
3	小学校低学年 1・2年	1. 経験や体験を結びついた豊かな表現を……。 2. 思いをこめて楽しく作るためには……。	造形遊び 描画 工作
4	小学校中学年 3・4年	1. 子供が躍動する創造活動を生みだすために……。 2. 目当てをもって楽しく作りだすためには……。	彫塑 工作
5	小学校高学年 5・6年	1. 一人一人が思いをこめてつくりだす活動……。 2. 心のかおる絵画表現を生みだすために……。	描画 版画
6	小学校総合 1～6年	1. 地域性を生かした造形教育の在り方……。 2. 主体的に活動する子供をつくりだすために……。 3. 北国の厳しさに耐える心を表すために……。	全領域
7	中学校	1. 自己を見つめ、感動あふれる豊かな表現……。 2. ねらいを明確にした表現活動を……。	描画 彫塑 工芸
8	中学校総合	1. 地域性を生かした造形教育の在り方……。 2. 心をとらえた造形活動を……。	全領域
9	高等学校	1. 主題を追求するための……。 2. 内面性を表現するための……。	全領域

司会 氏名 / 学校名	提言 氏名 / 学校名	助言 氏名 / 学校名	記録 氏名 / 学校名
島村　衛		吉田義晴	大西道代
紋別私立紋別保育	吉野恵理子	東藻琴村東藻琴幼	紋別大谷幼
久須美進策	東藻琴幼	菅原隆治	加藤典子
紋別市渚滑小		北見市北光幼	紋別大谷幼
本宮　豊	成瀬　登	渡辺貞之	森沢真佐子
上士幌町北居辺小	帯広市大空小	深川市菊水小	網走市網走小
原　弘	小泉陽明	神田耕治	増山真由美
滝上町滝下小	別海町中春別小	旭川市忠和小	北見高栄小
本間義視	大石迪也	今井龍男	亀浦忠夫
帯広市啓北小	清水町御影小	紋別市南丘小	小清水中斗美小
清水克美	猪谷憲博	阿部　将	竹中博人
別海町光進小	滝上町滝上小	釧路市東中	興部町秋里小
竹内洋嗣	原　完	横田勇吉	花田光正
遠軽町南中学校	旭川市旭川中	斜里町越川小	小清水町小清水中
田中　浩	佐藤源嗣	小室　吏	絹笠二三男
釧路市緑陵中	名寄市名寄東中	帯広市清川中	網走市第三中
土岐禎次	話題提供	道都大学	岡崎公輔
札幌北校	道都大学	美術科教授	北見小泉中学校

＜提言＞　幼稚園　全領域

「子供の心を満足させる活動をさせるには」

東藻琴幼稚園
吉　野　恵理子

Ⅰ　はじめに

東藻琴幼稚園では６１年度より、幼児の自発性を育てる保育と自然をとり入れる保育を２つの柱にして研修をおこなっている。

幼児の発想や遊びから生まれたものを育てようとした結果、今までにない活動やその発展がみられるようになっている。

今回は、造形にかかわるいくつかの実践より、幼児が友達とどのようにかかわっていったか、又、教師の援助はどうあるべきかを考える。

Ⅱ　内　容

1. 子どもにとっての造形活動。
2. 友達とかかわってつくるという事。
3. 実践例

Ⅰ．紙の立体動物づくりが、動物園ごっこになった例

Ⅱ．おうちごっこがレストランごっこになり、異年齢にまで広がっていった例

Ⅲ．幼児の発想で紙芝居作りが盛んになった例

Ⅲ　まとめ

- 豊かな造形活動は、豊かな日常生活から生れる。
- あそびの中で、幼児のかかわりは育つ。
- 教師は柔軟に、個人や集団に対応し、持ちあじを生かしていく。

＜提言＞　小学校・絵画(低学年)

「経験や体験と結びついた豊かな表現を」

帯広市立大空小学校
成　瀬　　登

Ⅰ　はじめに

六月下旬に急遽提言の依頼を受け、とりあえずお引受けいたしましたが何分にも検証の不足、資料の希薄さ等提言と言うには誠に雑駁であることをはじめにおことわりしておきます。

さて、希望に燃え小学校に入学してきた子どもたち、早いもので三カ月があっという間に経過しました。生活指導、学習のしつけ等に忙殺していた毎日ですが、この機会に描画指導の足跡を繰りながら実践のあらましを報告いたしたいと思っています。

Ⅱ　内　　容

(1)　子どもの絵の実態

世の中の変貌速度は実にスピーディーです。好きな絵の中にも現代っ子の顕著な特色が目につきます。人物表現のアニメ化、ＴＶゲームの普及による事物の記号化等々、社会現象の影響は歴然です。徹底した観念こわしが今こそ必要です。

一方、大人社会に於ても自然は増々箱庭化しているのが実態です。街路樹は勿論のこと、公園の樹木までもが枝葉が切られ、樹木の姿は形をなしていません。

(2)　低学年に於ける観察眼の指導

子どもたちの生活場面も大人社会同様に時刻表化されているのが現状です。その様な中にあっては、じっくり腰を据えた観察眼は育ちようがありません。従って、事物の概念化は一層深刻であります。四本足のにわとり、手指のある牛馬、身近である筈の犬猫の表現も十分とは言えません。

この様な現実を見るとき、図工科の位置は極めて重要であり、現状を確かに捉えた教育実践が求められています。一時間一時間の指導の積み重ね、そして事物を正しく捉える観察眼の育成こそ大切ではないでしょうか。

(3)　豊かさとともに逞ましさを求めて

コピー人間と言われている現代人、子ども社会にあっても稍、当てはまるのではなかろうか。個性がなく、細やかで「もっと大きく描いてごらん。画用紙から飛び出してもいいんだよ。」と言っても、なかなかぐいぐいと手が動きません。まるで金縛りにあったようです。それでも，伸び伸びと時間いっぱい、子どもたちの心を解放してやれるのは、矢張り、図工科の時間ではないのでしょうか。

Ⅲ　まとめ

「先生、図工とっても楽しいよ。」「先生、人間の顔って面白いね。」図工科の時間には、どの時間より大きな声で会話が交わされる。

そして、絵を描くことが好きになる子がひとりでも多くなってくれることを夢見ています。オホーツク大会で皆さんと実践を交換し、マンネリ化から脱出できればと秘かに念じております。

＜提言＞　小学校・工作(中学年)

「子供が躍動する創造活動を生みだすために……」

〜 多くの材料経験をさせ用具・技法を駆使して、使うものを創造させる 〜

別海町立中春別小学校
小　泉　陽　明

Ⅰ　はじめに

現社の社会は、自分で物を造るなどということは少ないし、なんでも安易に手に入る。

子供達は、自分の生活の中で使うものを、創造する力を持っているし、欲求もある。しかし、自分の身の回りの素材を生かし、用具技法を使って創作する機会に、恵まれないままになっている。

家庭訪問をした時、数年前に作った、紙のレリーフが丁寧に飾られているのを見て、感動しました。他に、小箱、筆立が使われていた。

これは、子供達が自分の創ったものに感動して、大切にしていることの表れであると考える。

創る機会をあたえた、実践について報告します。

Ⅱ　中学年の工作

子供達は、自分の考えを表現し、出来上った時の喜びを得ようと努力している。自ら考え、自らの力で解決し、自ら学びとろうとする姿勢をつくるようにしなければならないのではないでしょうか。

材料は、身の回りから得るようにする。工作の教材が規格され、簡単に出来てしまうものがある。そこで教材の開発をしなければならない。

(1)　小箱をつくる

ねらい…基本の形の箱のつくり方を理解させ、楽しく使える箱をつくる。

準　備…参考作品、展開図のひな形、実と蓋、厚紙、色紙、大和糊、はさみ、カッターナイフ

◎学習の流れ

展開図のかき方は四角形の箱で指導し、子供達は、六角形、八角形の作図をする。作図する基本的なこと、実と蓋の関係を工夫させる。

切り目を入れる。接着のしかたは、大和糊を使って補助紙を使って接着する。

色紙を貼るには、指を使って、手を汚して貼ることは、現在は大切な経験であると考えます。

これによって、基礎・基本が身につき、次々と工夫した箱を創るようになった。

(2)　はりこの動物

ねらい…びんを使って、はりこをつくり、その形を生かして、好きな動物をつくる。

準　備…びん、食用油、半紙、新聞紙、ちり紙、厚紙、小麦粉糊、カッターナイフ、水彩絵の具

◎学習の流れ

びんに油をぬり、半紙を帯状に切り水でぬらし貼る。新聞紙も帯状に切り、小麦粉糊ではり重ねていく。4〜5枚の厚さになったら半紙にのりをつけ貼る。これを乾し、カッターナイフで切り、びん形を取る。これをもとに、いろいろの角度からながめ、厚紙などをつけ加えて動物を創造する。しっかり接着し、動物ができたら着色して出来あがる。

Ⅲ　まとめ

いろいろな材料と用具・技法を使って、経験を積み重ねることにより、生きて働く「創造性」を培うことになると考える。

＜提言＞　小学校・絵画（高学年）

「心のかおる絵画表現を生みだすために」
―郷土を知らせよう―

清水町立御影小学校
大　石　迪　也

Ⅰ　はじめに

図工の学習をしたら、自然とか物の形の美しさを自ら気づき感じ取り、表現できる子どもになったといわれるような指導をしてみたいものだと常日頃考えている。そこで、3年、4年と2年間担任していた利点を生かして絵画学習のまとめとして、「郷土の風景」を取り上げて子ども達が毎日生活している環境を対象に、その美しさを見直し、思い切り表現させてみようと思った。

Ⅱ　指導の実践について

(1)　題材　「郷土を知らせよう」

(2)　題材について

風景というと、観察しながら現地で描き上げると考えられがちであるが、本題材の製作は教室が中心となるので、観察し、スケッチしたものをもとに表現する学習である。

(3)　目標

- 家の近くや通学区内で、美しいと感じた風景、だれかに郷土を知らせたい場所をはっきり決めて、主題がよく表れるように描くことができる。
- スケッチやイメージをもとにして、ある程度見通しを持って描くことができる。
- 最後まで根気よく表現する態度を身につける。

(4)　学習計画

- 導入　・学習課題の説明と計画……1
- 展開　・下絵を描く……1
　　・彩色する……4
- まとめ　・鑑賞する……1

(5)　準　備

教師…四つ切り画用紙、スケッチ用紙

児童…油性ペン、水彩用具一式、鉛筆

(6)　学習課程の説明

- 題材の決定―計画の立案
  - みんなの住んでいる地域の風景の中から自分でいいなあと思う所を捜して絵に描いてみよう。
  - 条件は、通学区内であること、通学区内から見えるところ、道路の上ではスケッチをしないこと。
- 写生地選び―スケッチ
  - 課外活動として写生地選び、スケッチ用具を持参してくる。
  - 郷土を絵で知らせるとしたら
  - 写生地の決まらない子は先生と一緒に見つける。
- 画用紙への下絵描き
  - 鉛筆でも油性ペンでもいい。
  - スケッチをもとにして、下絵をくわしく描いてみよう。
- 彩　色
  - 混色、重色、ぼかし、点描などの技法指導

Ⅲ　おわりに

一題材を指導する場合は、発想から構想段階（導入）を大切に扱うことが、ひとりひとりの子どもの気持ちを大切にすることであり、個性を認め、創造性を養うことであると思う。

＜提言＞　小学校・総合

感動を他領域に結びつける手だてのある造形実践

～物語の絵・紙芝居・ビデオづくり～

網走・滝上小学校
猪谷憲博

Ⅰ　はじめに

図工科の学習は、絵をかいたり、ものを造ったり、飾ったりすることの学習が中心になるものであり、単なる知識の理解にとどまるものではない。

人間の持つ能力の中で、最も優れているものは、自分の手で新しいものを造り出すことである。最近の子どもたちは、ミニカーやパソコンなど既製の遊びに慣れて、自分たちで遊びを造ることができなくなっている。

図工・美術科の教科は「造る」という活動を通して、心の豊かな子どもたちを育てることである。芸術家を育てることや、きれいな見映えのする作品を作らせることだけが目的ではない。「造る」という過程を通して、物事に集中する力や、物を大切にする心、美しいものを正しく認識できる確かな眼・心を養うことである。

この発表は、物語の絵の指導を紙芝居づくりに生かし、更に、ビデオづくりにまで発展させた実践例である。

みな様のご助言ご指導を仰ぎたいと考えています。

Ⅱ　実践の取り組み

1.　物語の絵の指導

まず物語を読み、各自感動したことや場面を決め、表わしたい感じがよく表われるようにかき方や順序を工夫して描かせた。描く場面については、物語の読後、みんなで話し合って、七つの場面を選んだ。しかし、読んだ内容が非常に感動的で、子ども達が興味を示しても、なかなか表現に結びつかなかった。その解決策として取り入れたことは、造形的イメージが湧くように教師の読みの工夫があり、絵になる条件を押さえて構想を練られた。ここから、七つの場面にしぼったのである。さらに、見上げか、見おろしか、ロングか、アップか視点を決めて考えさせ、子どもの考えが具体化できるような指導助言をする必要があった。

2.　興味・関心を広げて、紙芝居づくり

七つの場面の鑑賞の段階で、物語の初めから終わりまでの他の場面も描き、紙芝居を作るのも学習活動を広げていく、ひとつの方法であることを確認して、作業の班分けをし、更に別の場面の構成でがんばった。しかし、この場合、描画としての価値の低い場面構成がいくつかあったが、これは、この場合許されるべきものであろう。子ども達が協力して、ひとつの活動を成就したその事こそが評価されるべきものであろう。

3.　紙芝居からビデオづくりへ発表

完成した紙芝居を鑑賞している中から、子ども達の夢は、更に大きくふくらんできた。本校の放送局員が、日頃から大々的に取り組んでいるビデオ製作にまで、我々の学習を発展させるべきで、今はもうビデオの時代だというのである。そこでビデオづくりの活動が始まったのであるが、そこには多くの技術的な障害が待ち受けていたが、このことについては省略する。

多くの難関を経て、そのビデオは完成した。

Ⅲ　まとめと今後の展望

今回の実践は、絵画領域の総合ということでまとめられますが、更に、別の領域どうしの総合も考えられるのではないでしょうか。そしてこの事が、造形教育の豊かな表現をめざす造形活動となって広がるのです。

＜提言＞　中学校・彫塑

「彫塑、頭像の制作における指導の工夫」

～ 発見や感動をもとにつくりだす彫塑学習をめざして ～

旭川市立旭川中学校
原　　完

Ⅰ　はじめに

昨年、旭川で行われた全国造形大会で、旭川の中学校彫塑部会は「つくる心の拡がりと深まりをもとめて」の研究主題に基づき研究を重ね２つの授業を公開した。

子ども達のイメージを大切にし、発見や感動をもとにつくり出す彫塑学習をめざしてきたのであるが、その後の実践経過をもとに、「頭像の制作」における指導の工夫についてまとめてみたい。

Ⅱ　「頭像をつくる」の指導

(1)　題材を考える

単に、造形作品を完成させるためだけの安易な題材ではなく、対象にじかにふれ、対話ができるもの、外見だけの印象だけでなく、対象の内面を探り出し表現できる人間を相手に取り組ませることが大切だと思う。人と人との心のふれ合いが少なくなったり、いじめなどのいやな現象が起きている昨今、お互いに顔を見つめ心を通わせる場面があってもよいのではないか。

(2)　素材を考える

最近は、なんでもたやすく、簡単に物が出来上る時代、子ども達の生活にもそれが影響し、苦労してつくりあげたりする学習を嫌い、当然そういう体験がない。また素材ですらきれいで容易な物に変ってきている。あえてここで土の感触を体験させ、土の持つあたたかみ、そして焼いてみたら（テラコッタ）どうなるかも味あわせたい。

(3)　作品の大きさを考える。

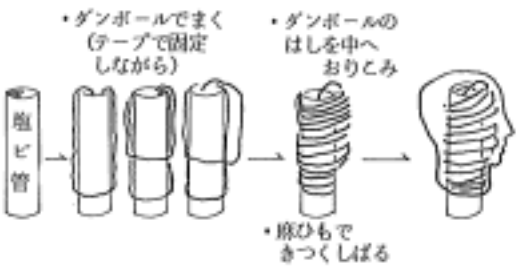
素材をできるだけたくさん与え、大きな物をつくらせる。材料費がかかりすぎる。保管場所がはいなどの問題はあるが、小さい作品になればなるほど、対象を観察し、ストレートに表現するのはむずかしいことを、我々が一番よく知っているはずだ。

(4)　指導過程・指導内容の改善

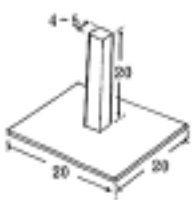
授業以前での日常の生活の中で、子ども同志のよい人間関係ができている（いじめや仲間はずれがない・誰とでも協力できる）ことを大切にし、対象（友だち）から受けたイメージを大切にし、それを作品完成までずっと持ち続け、深く追求していけるような流れが必要ではないか。

学習カードの活用や毎時間の到達目標の設定と、それに対する自己評価などが、制作意欲を変えてくるものである。

(5)　自作の心棒と支柱（製作台）



・支柱（製作台）～角材・コンパネ



・塩ビ管を回すことにより
回転台にもなる。
・作品展示台にもなる。

＜提言＞　中学校・総合

心をとらえた造形活動を
共同制作によるポスターづくりの試み

名寄東中学校
佐藤　源　嗣

Ⅰ　はじめに

校内暴力、非行等の嵐が全道の各中学校を吹きあれた時と同じくして、名寄東中学校もその洗礼を受けた。

〝学習が成立しない〟ということに加えて、教師達は、問題生徒の非行防止にかかわる指導と、事故処理に忙殺された。授業の準備を後まわしにして、校舎内外を走りまわった。

幸い、私が赴任した年には、殆んどといってよいほど鎮静化しており、授業防害も生徒指導にふりまわされることもなくなっていた。しかし、いつ再発してもおかしくない芽はあちこちに感じとることができたし、小さなトラブルは結構あった。

興味のない者、やりたくない者は、何時間かかっても一向に制作が進行しないという傾向の中で、生徒を作品づくりにどう参加させるか、という課題の中で試みたのが共同制作によるポスターづくりである。

Ⅱ　心をとらえるために

美術の学習の多くは、全体指導という場面設定があっても、教師対生徒（個人）のかかわりの中で、個人の制作が進められて行く。

もちろん、生徒と生徒の交流もあり、その中で作品の質が高められて行くこともあるが、あくまでも個人の造形活動が主体である。

全紙版による大型ポスターづくりは、協力しあうことが前提条件である。ひとりではとうてい制作不可能な作品を作りあげることで、参加したという意識、協力することの意義、そして、完成の喜びを全員が味わうことができれば、作品の中に、自分の心を見出すことができるのではないかと考えた。

Ⅲ　とりくみの過程（項目のみ）

(1)　共同制作とポスターのねらい
(2)　テーマの設定
(3)　コピーづくり
(4)　資料収集
(5)　原画づくり
(6)　レタリング
(7)　下絵づくり（原画の拡大）
(8)　彩　　色
(9)　鑑　　賞
(10)　反　　省

Ⅳ　おわりに

好きな者にとっては、自分自身の作品を自由に制作したい気持があり、共同制作では、それを生かしきれないマイナス面がある。しかし、意見をぶつけ合う中で、ひとりでは作りきれない大作を、みんなで作りあげた喜びは、想像以上に大きなものがあった。又、自分達や社会がかかえる諸問題に対して、ポスターを通して伝えていく意味を、制作活動の中から学びとってくれたようにも感じている。

北海道造形教育連盟規約

1. 名称と目的
本連盟は、北海道造形教育連盟といい、本道造形教育の振興をはかるをもって目的とする。

2. 事　　業
本連盟は、目的を達成するためにつぎの事業を行う。
1. 研究会・講演会・展覧会等の開催及び後援
2. 造形教育に関する教科書・教材・教具等の研究
3. 機関誌「北海道造形教育連盟報」の刊行
4. 他の造形教育団体との連絡提携
5. その他造形教育振興上必要な事項

3. 会　　員
正 会 員　　本道幼・小・中・高・その他これに準ずる学校の教職員
賛助会員　　本連盟の目的に賛同するもの

4. 組　　織
サークル　　本道各地にサークルを置き、会員は原則としてこれに所属する。
本　　部　　本連盟の本部は札幌におく。

5. 構成及任務
1. 役　員
委 員 長　1　名　本連盟を代表する。
副委員長　若干名　委員長を補佐する。
会計監査　2　名　会計の監査をする。
2. 委　員
地区委員　地区1名　地区サークルを代表する。
常任委員　若 干 名　本連盟の運営に当る。
顧　　問　連盟の重要な問題につき意見を述べる。

6. 選　　任
○委員長、副委員長、会計監査は委員総会で選出する。
○地区委員は地町サークルで選出する。
○常任委員は委員長の委嘱による。
○顧問は委員総会において委嘱する。

7. 任　　期
役員及び委員の任期は1カ年とする。但し重任を妨げない。

8. 会　　議
○総　　会　　必要に応じ開催し、連盟事業につき協議する。
○委 員 総 会　　役員、委員をもって構成し毎年開催する。役員の選出、予算、決算及び年度計画等につき審議する。
○常任委員会　　役員及び常任委員をもって構成し、連盟の事業を執行する。

9. 会　　計
本連盟の会計は、会費・事業収入及び寄附金により執行する。
会　費　　正会員は、1人年額千円を納入するものとする。
サークルは年額4千円を本部に納入するものとする。

10. 事 務 局
○事務局は事務局長在勤の学校におく。
○事務局長は常任委員中より委員長が委嘱する。
○事務局には必要に応じて各部を設け業務の分担をする。

11. 年　　度
本連盟の事業並びに会計年度は5月に始まり翌年4月に終わる。

12. 規約の改廃
本規約の改廃は委員総会の議決による（昭和62年5月3日改定）

大会協力校紹介
(公開授業)

保育所　紋別市立紋別保育所
所在地　紋別市潮見町３丁目
所長　島村　衛氏
豪あしたに夕べに潮かぜあびて、強く優しい真心が、幼児の社会に香るよう、紋別保育の兄弟姉妹。

幼稚園　紋別幼稚園
所在地　紋別市花園町２丁目
園長　鈴木典明氏
豪秋にマラソン、冬に雪やますべり。キリスト教精神に基づき、自主性と愛の心、混合保育で高まる触れ合い。

学校名　紋別市立紋別小学校
所在地　紋別市花園町５丁目
学校長　豊島　豊氏
豪26学級902名、オホーツク海沿岸の中央、遥かに知床の連山を望む。正しく判断、ゆとう進もう21世紀

学校名　紋別市立潮見小学校
所在地　紋別市潮見町３丁目
学校長　住吉栄樹氏
豪23学級808名、流氷に耐えぬく潮見の子、歩きながら考え汗して働く。群読のすがすがしい響き遥かオホーツクの海に。

学校名　興部町立沙留小学校
所在地　興部町沙留字旭町
学校長　野口甲美氏
豪６学級112名、北の高波、岩に踊る。恵まれた自然のもとにたくましく、朗読の声爽やかに、日々の力育くみ、明日を開く。

学校名　雄武町立雄武中学校
所在地　雄武町末広町１区
学校長　渡部福吉氏
豪10学級310名、丘の上の白亜の殿堂で、まさにオホーツクの旅人（流氷）の見える丘、雄武中。潮鳴りに若さあふれる。

大　会　役　員

大会委員長	松島照男	北海道造形教育連盟委員長
大会副委員長	菅原隆治	北海道造形教育連盟顧問
〃	吉田義晴	北海道造形教育連盟顧問
〃	早弓弘行	北海道造形教育連盟副委員長
〃	寺本吉明	北海道造形教育連盟副委員長
〃	秋山修世	北海道造形教育連盟副委員長
〃	佐藤吉五郎	北海道造形教育連盟副委員長
大会顧問	小松厚	オホーツク造形教育連盟顧問
〃	川村正男	オホーツク造形教育連盟顧問
〃	鷲見憲治	オホーツク造形教育連盟顧問
〃	近江幸之助	オホーツク造形教育連盟顧問
大会理事	佐々木理温	北海道造形教育連盟事務局長
〃	島村衛	紋別市立紋別保育所長
〃	鈴木典明	紋別幼稚園長
〃	橋淑生	紋別大谷幼稚園長
〃	渡部陽吉	雄武町立雄武中学校長
〃	野口甲美	興部町立沙留小学校長
〃	高山與作	紋別市立紋別中学校長
〃	住吉栄樹	紋別市立潮見小学校長
〃	長谷川康吉	紋別市立中渚滑小学校長
〃	久須美進策	紋別市立渚滑小学校長
大会運営委員長	豊島豊	オホーツク造形教育連盟委員長
〃 副委員長	今井龍男	オホーツク造形教育連盟副委員長
〃	横田勇吉	オホーツク造形教育連盟副委員長
〃	黒河洋輔	オホーツク造形教育連盟副委員長
大会総務部長	高橋忠昭	オホーツク造形教育連盟事務局長
総務部	森懸蔵	遠軽町立社名淵小学校
〃	亀浦忠夫	小清水町立中斗美小学校
〃	山宮喬也	女満別町立開陽小学校
〃	石橋一郎	小清水町立旭野小学校
大会事務局長	狩野鉄男	紋別市立紋別小学校
〃 次長	池田義雄	紋別市立紋別小学校
〃	小野寺宏二	紋別市立紋別小学校
〃	須貝喜久晴	網走市立丸万小学校
大会々計部長	猪谷憲博	滝上町立滝上小学校

大会研修部長	西原 進	佐呂間町立知来小学校
〃 副部長	酒井 貞夫	紋別市立紋別小学校
〃	佐藤 敬司	訓子府町立訓子府中学校
研修部	佐々木 妙子	紋別市立紋別保育所
〃	高野 友子	紋別市立紋別保育所
〃	奥村 由美子	紋別市立紋別保育所
〃	北原 洋子	紋別市立渚滑保育所
〃	宇野 礼子	紋別市立上渚滑保育所
〃	伊藤 京子	紋別市立緑保育所
〃	坂下 悦子	紋別幼稚園
〃	折目 昌子	紋別幼稚園
〃	門井 彰子	紋別幼稚園
〃	政二 美沙	興部町立沙留小学校
〃	小蔵 春雄	紋別市立潮見小学校
〃	小野寺 宏二	紋別市立紋別小学校
〃	渡辺 智枝	紋別市立紋別小学校
〃	井上 忠明	紋別市立紋別小学校
〃	山田 明弘	紋別市立紋別小学校
〃	阿部 輝夫	紋別市立紋別小学校
〃	木山 順子	紋別市立紋別小学校
〃	佐々木 雅栄	紋別市立紋別小学校
〃	坂木 勝雄	紋別市立潮見小学校
〃	金子 定雄	雄武町立雄武中学校
〃	西尾 昇	紋別市立紋別小学校
〃	山崎 ミツ子	紋別市立紋別小学校
〃	高橋 登	紋別市立紋別小学校
〃	奥崎 アサ子	紋別市立紋別小学校
〃	浜本 正志	紋別市立紋別小学校
〃	小池 久雄	紋別市立紋別小学校
〃	田中 葉聰子	紋別市立紋別小学校
〃	坂本 美枝子	紋別市立紋別小学校
〃	池知 正晴	紋別市立紋別小学校
〃	須郷 高義	紋別市立紋別小学校
〃	横畠 正宏	紋別市立紋別小学校
〃	阿部 寿文	道都大学
〃	原谷 公	興部町立沙留小学校

編集部長	黒河 洋輔	湧別町立上芭露小学校
〃 副部長	須貝 喜久晴	網走市立丸万小学校
編集部	青木 修	北見市立高栄中学校
〃	竹内 洋嗣	遠軽町立南中学校
〃	橋本 弘	佐呂間町立佐呂間小学校
〃	原 弘	滝上町立滝下小学校
〃	森沢 真佐子	網走市立網走小学校
〃	竹中 博人	興部町立秋里小学校
〃	近井 大太郎	斜里町立来運小学校
〃	花田 光正	小清水町立小清水中学校
〃	加藤 典子	紋別大谷幼稚園
〃	大西 道代	紋別大谷幼稚園
〃	小山内 繁	紋別市立紋別中学校

編集部	原口愛子	紋別市立潮見小学校
〃	星益代	紋別市立潮見小学校
〃	鍋島博	紋別市立潮見小学校
〃	小野寺美智子	紋別市立潮見小学校
〃	浅利恵子	紋別市立潮見小学校
〃	橋場智子	紋別市立潮見小学校
〃	滝田実	紋別市立潮見小学校
〃	相原志津子	紋別市立潮見小学校
〃	平山奉子	紋別市立潮見小学校
〃	佐藤誠治	紋別市立紋別小学校
〃	高橋夕子	紋別市立紋別小学校
〃	浅利誠	紋別市立中湛滑小学校
〃	増山真由美	北見市立高栄小学校
事業部長	横田勇吉	斜里町立川越小学校
〃 副部長	森内敏明	紋別市立紋別小学校
〃	絹笠二三男	網走市立第三中学校
〃	岡崎公輔	北見市立小泉中学校
〃	須貝徹	佐呂間町立浜佐呂間中学校
事業部	長谷川政司	留辺蘂町立留辺蘂中学校
〃	大久保忍	紋別市立紋別小学校
〃	佐藤昌子	紋別市立紋別小学校
〃	山下和彦	紋別市立紋別小学校
〃	赤野トキ子	紋別市立紋別小学校
〃	今井純子	紋別市立紋別小学校
〃	岡沢ふみ子	紋別市立紋別小学校
〃	永田美由紀	紋別市立紋別小学校
〃	野本勲	女満別町立開陽小学校
〃	中島春夫	紋別市立潮見小学校
〃	松木弘	紋別市立潮見小学校
〃	長瀬正人	紋別市立潮見小学校
〃	戎武裕	紋別市立潮見小学校
〃	小幡昌徳	紋別市立潮見小学校
〃	中田弘	紋別市立潮見小学校
〃	小笠原忠勝	紋別市立潮見小学校
〃	安田正	紋別市立潮見小学校
〃	板倉久弘	紋別市立潮見小学校
〃	山田雅司	紋別市立潮見小学校
〃	佐藤禎洋	紋別市立潮見小学校
アトラクション	大久保忍	紋別市立紋別小学校
会場部会	今井龍男	紋別市立南丘小学校
〃 副部長	小北武夫	紋別市立紋別小学校
会場部	田村茂喜	斜里町立江南小学校
〃	後藤省吾	北見市立小泉小学校
〃	太田蔵夫	紋別市立紋別小学校
〃	小玉守彦	紋別市立紋別小学校
〃	蝦名儀一	紋別市立紋別小学校

紋別小学校ＰＴＡ協力役員

ＰＴＡ会長　石　崎　恵　雄

事業係	佐野法充	寿見隆利	苫米地今日子	横田裕子
	大滝陽子	米田郁子	苅屋京子	小寺重信
	田上ひろ子	菅原祐子	高橋恵美子	楠木恵美子
	鈴木文恵	石田優美子	阿部しげ子	上名節男
	早川佐知子	小野貞子	櫻野美代	山川京子
	宮下伸子	鈴木政子	村谷直子	石崎恵雄
	青木孝人	上野恵子	谷村修一	藤倉治美
	松原ヒサ	富樫由美子	小池幸雄	小山内道広
	遠藤美津子	高橋美津子	佐藤チエ子	佐藤みどり
	岩間敏子	衣原初恵	石岡涼子	横田容子
	佐藤輝雄	佐藤照子	阿部啓子	山崎　貞
	原田由博	本多暢子	天野耿子	板東清美
	北川京子	河村昭子	鹿谷美紀子	笠井康子
	西村美喜子	楠木禎子	岡田春江	大熊美子
	石川琴恵	松田幸子	高野美春	藤島美智子
	小寺茂美子	吉川みどり	富樫初枝	菅野暢子
	畑　節子	石原百合子	根木邦子	高橋篤子
	中橋恵美子	伊藤久美子		
会場係	鏡　憲一	福士幸弘	大島百合子	加藤　進
	伊藤るり子	木村とめえ	勝山洋子	石岡敏紀
	鈴木廣子	菊野邦子	谷　文子	柴田美枝子
	田村静子	井上法子	黒川ゆり子	竹田順子
	曽我多恵子	佐藤八重子	渡辺賢二	能井麗子
	宮腰綾子	小川澄子	沢村弘志	森　茂
	久保安伊	北郷修弘	中張茂利	大石由美子
	加藤花子	渋谷恵美子	佐藤明美	佐藤三和子
	渡部裕子	梅田喜恵子	吉野　恵	丸尾紀美子
	井上順子	寺門ミナ子	長井俊蔵	斎藤節子
	鈴木光子	中西貴美子	鈴木礼子	石川千恵子
	長尾勝雄			
編集係	勝山小次郎	新田清子	森　光子	宮川治子
	加藤勝恵	桟　真知子	西川敏行	坂本牧子
	鈴木多恵子	斎藤良子	西村美代子	林　裕子
	柿崎哲子	寺舘真利子	勝野郁子	大屋美智子
	宮沢俊枝	児玉啓子	真鍋明美	岩松　操
	佐藤美智子	岩倉ひな	佐藤文枝	

昭和62年度　北海道造形教育連盟名簿

役　員

役職	氏名	勤務校	所在地	電話番号
委員長	松島　輝夫	札幌市月寒東小長	062　札幌市豊平区月寒東3条10丁目	011-851-7924
副委員長	秋山　修世	函館市西中長	040　函館市弥生町11-16	0138-22-2828
〃	豊島　豊	紋別市紋別小長	094　紋別市花園町5丁目	01582-3-5135
〃	寺本　吉明	足寄町東小頭	089-37　足寄郡足寄町旭町1丁目38	01562-5-2424
〃	早弓　弘行	滝川市東小長	073　滝川市文京町2丁目1-1	0125-23-1591
〃	佐藤吉五郎	札幌市新琴似南小長	001　札幌市北区新琴似1条3丁目	011-762-3274
監督	一ノ戸信雄	美唄市東栄小長	072　美唄市東明区2区	01266-3-2629
〃	茶谷　哲夫	札幌市東栄中長	065　札幌市本町1条7丁目	011-781-0278

地　区　委　員

地区	サークル名	氏名	勤務校	所在地	電話電号
札幌	連盟札幌支部	岩間　義仁	もみじ台中	061-01　札幌市白石区もみじ台西1丁目	011-897-4584
道央	石狩造形連盟	巌　信栄	真町中長	066　千歳市真々地2丁目3-1	0123-23-0131
〃	〃	宮川　誠一	広葉中	061-11　札幌郡広島町広葉町5丁目	01137-3-4918
〃	空知美術教育研究会	田上　功	奈井江小	079-03　空知郡奈井江町164	01256-5-2108
〃	〃	内田　暢一	幌向小	069-03　岩見沢市幌向南2条1丁目	0126-26-2100
道西	連盟後志支部	志津　源男	稲内小頭	045-03　古宇郡神恵内村稲内256	0135-77-6260
道北	上川造形研究会	中西　清治	名寄中	096　名寄市豊栄101	01654-2-2147
〃	旭川市教育研究会 図工美術部会	千葉　豊治	聖園中	070　旭川市5条西5丁目	0166-22-4786
〃	留萌地方美術教育研究会	出村　保	北光中長	077　留萌市春日町1丁目-5	01644-2-1597
〃	稚内市教研図工美術部会	庄崎　裕史	声問小	098-66　稚内市声問	0162-26-2919
道南	渡島美術教育研究会	近堂　俊行	大中山中	041-11　亀田郡七飯町大中山291-1	0138-65-2221
〃	函館市美術教育研究会	安井　孝	的場中	040　函館市的場町12-7	0138-52-5108
〃	桧山造形教育研究会	三浦　敏勝	滝沢小長	049-06　桧山郡上ノ国町字木ノ子192	01395-8-5004
〃	連盟伊達支部	田口　香苗	稀府小	059-02　伊達市中稀府町86	0142-24-1152
〃	登別美術図工サークル	野崎　信夫	若草小	050　登別市若草町1-1	01438-6-7513
〃	連盟室蘭支部	武田　貢	御前水中	051　室蘭市御前水町2丁目18	0143-22-8288
〃	苫小牧造形研究会	片桐　勉	苫小牧東中	053　苫小牧市旭町1-7	0144-32-5231
〃	連盟日高支部	谷口　明志	富川高	055　沙流郡門別町字富川町706	01456-2-0411
道東	十勝造形サークル	寺本　吉明	東小頭	089-37　足寄郡足寄町旭町1丁目38	01562-5-2424
〃	帯広市教育研究会 図工美術部会	本間　義視	啓北小	080　帯広市西14条北7丁目3	0155-36-7754
〃	釧路市造形教育研究会	稲船　正男	桜ケ丘中	084　釧路市桜ケ丘6丁目27-12	0154-92-0711
〃	〃	岩田　広	景雲中	085　釧路市東川町16-1	0154-23-6191
〃	オホーツク造形連盟	黒河　洋輔	上芭露小長	099-05　紋別郡湧別町上芭露	01586-7-2324
〃	〃	横田　勇吉	越川小長	099-41　斜里郡斜里町越川89	01522-3-2981
〃	根室造形教育連盟	岩田　宏一	北斗小長	087　根室市北斗町3丁目5	01532-4-2171

事　務　局

〒006　札幌市西区富丘1条6丁目4番1号
札幌市立富丘小学校　佐々木　理　温
TEL　011-(683)3791

第37回全道造形教育研究大会紋別大会

発行者　大会運営委員長　豊島　豊

大会事務局　紋別市立紋別小学校
電話(01582) 3-5135

発行年月日　昭和62年7月28日

印刷所　横田印刷株式会社
紋別市本町4丁目
電話(01582) 4-3369